

平成21年
ざま子ども議会
報告書

座間市企画財政部政策課
平成21年9月

「ざま子ども議会宣言」

- ・ 座間のおいしい水や美しいひまわりなど、豊かな自然を守り、緑を増やしていく努力をします。
- ・ ゴミの分別、リサイクルなど地球にやさしい活動に積極的に取り組み、座間の環境問題により関心を持ちます。
- ・ 人と人とのつながりを大切にし、あたたかな地域になるように取り組んでいきます。
- ・ お年寄りや身体からだの不自由な人はもちろん、座間市のみんなが安心して生活でき、協力し合い、思いやりのあるまちになるよう、努力します。
- ・ 防犯防災に対しての一人一人の意識を高め、安心安全な生活が送れるように努力していきます。
- ・ 色々な国の文化とふれあいながら共に生きていきます。

平成21年8月20日



目 次

I	市長あいさつ.....	1
II	会議録.....	3
1	本日の出席子ども議会議員.....	3
2	本日の出席説明員.....	3
3	本日の事務局職員出席者.....	4
4	本日の議事日程.....	4
5	本日の会議に付した事件.....	5
6	開会.....	5
7	一般質問.....	6
	●1番(菱沼阿連君).....	6
	●2番(青木彩弥君).....	8
	●3番(板垣 徹君).....	9
	●4番(吉岡 和香奈君).....	11
	●5番(安達 未悠君).....	12
	●6番(佐藤 里奈君).....	14
	●7番(三浦 栄一君).....	15
	●8番(金尾 雄大君).....	17
	●9番(山口 菜穂君).....	19
	●10番(山内 実咲君).....	21
	●11番(高木 碧海君).....	23
	●12番(天野 沙希君).....	25
	●13番(谷 和哉君).....	27
	●14番(高杉 光咲君).....	29
	●15番(石川 悠弥君).....	30
	●16番(田中 柚香君).....	32
	●17番(金丸 青里香君).....	34
	●18番(園田 碧君).....	35
	●19番(小川 莉奈君).....	37
	●20番(人見 健君).....	39
	●21番(石田 舞奈君).....	41
	●22番(井上 南風美君).....	43
	●23番(飯島 章裕君).....	45

8	ざま子ども議会宣言.....	49
9	閉会.....	50
III	教育長あいさつ.....	51
IV	感想文 ∞ざま子ども議会に参加して∞.....	53
	座間小学校 三浦 栄一.....	53
	栗原小学校 佐藤 里奈.....	53
	相模野小学校 石川 悠弥.....	54
	相武台東小学校 人見 健.....	54
	ひばりが丘小学校 園田 碧.....	54
	東原小学校 金丸 青里香.....	55
	相模が丘小学校 田中 柚香.....	55
	立野台小学校 谷 和哉.....	56
	入谷小学校 飯島 章裕.....	56
	旭小学校 高木 碧海.....	57
	中原小学校 金尾 雄大.....	57
	座間中学校 石田 舞奈.....	58
	座間中学校 小川 莉奈.....	58
	西中学校 山内 実咲.....	59
	西中学校 山口 菜穂.....	59
	東中学校 高杉 光咲.....	60
	東中学校 菱沼 阿連.....	60
	栗原中学校 板垣 徹.....	60
	栗原中学校 井上 南風美.....	61
	相模中学校 安達 未悠.....	61
	相模中学校 天野 沙希.....	62
	南中学校 青木 彩弥.....	62
	南中学校 吉岡 和香奈.....	63

I 市長あいさつ

座間の子ども議会に議員として参加していただき、ありがとうございます。心から感謝を申し上げます。

今日の質問を考えていただくにあたって、なぜ、今日この子ども議会が開催されることになったのかということ、既に話を聞かれていることとも思いますが、あらためてお話させていただきます。

まだ、仮の名称ですけれども、座間市の第四次総合計画という、これから先このまちをどのようにしていったならば、住んでいる市民、働きに来られる方々、そしてこの座間にいろいろのご縁で来られる皆さんにとって、すばらしいまちにできるのかという総合計画を、再来年の平成23年4月1日から10年に渡る計画を組んでいこうとしていまして、現在はそのスタートにあります。

みなさんは、今日、中学生、小学生という立場で、子ども議会の議員としてこの場にいらしていただいておりますが、その計画が策定され、実行され、終了する、これから12年後は、それぞれが成人され、大人になられ、この座間にはばたいていらっしゃる、ちょうどその頃になろうかとも思います。

そして、みなさんにとっても大切な将来を、皆さんの今の視点からとらえていただいて、このまちにある問題はどうか、課題はどうか、そういったことを、私を含めた座間市の方ではどう考えているのだろうか、そういったことをぶつけていただき、皆さんが抱いている疑問を、または、こうあるべきだというお考えを皆さんにとっても大事な市の総合計画に盛り込ませていただきながら、この座間をすばらしいまちにしていきたいという願いから、この子ども議会を開催させていただくわけです。

すでに質問をいただいておりますが、私たち自身も「ああこういう考え方もあったのか」、「こういう悩みもあったのか」、「こういう問題意識を持っていただいているのか」という大変すばらしい質問ばかりで、いただいた質問を各担当の部局で、本当にねじり鉢巻で、真剣に、考えさせていただき、今日は、お答えをさせていただきたいと思います。

どうか、今日この日が、皆さんにとっても、忘れえぬものに、有意義なものに、そして私ども、座間市を預かる立場にある職員にとっても、有意義なものになるように、お互いに真剣に、そして、頑張って議論を戦わせることにいたしましょう。

そして、今日は、多くのご父兄、PTAのご関係者に傍聴にいらしていただいております。こうした取り組みは、皆さんのお力添えがあって、はじめて実現できたわけでござい



まして、その点につきましても、あらためて深く感謝を申し上げます。どうか、今日、この一日が有意義なものになりますように、よろしくご協力をおねがいしたいと思います。

それでは、頑張ってまいりましょう。

これで、私のあいさつを終わります。

この後は、皆さんにお答えを申し上げる私どもの職員が自己紹介をしますので、よく顔を覚えてやってください。よろしくお願いいたします。

(理事者自己紹介は省略)



II 会議録

1 本日の出席子ども議会議員 23名

1番	菱	沼	阿	連	君
2番	青	木	彩	弥	君
3番	板	垣		徹	君
4番	吉	岡	和香	奈	君
5番	安	達	未	悠	君
6番	佐	藤	里	奈	君
7番	三	浦	栄	一	君
8番	金	尾	雄	大	君
9番	山	口	菜	穂	君
10番	山	内	実	咲	君
11番	高	木	碧	海	君
12番	天	野	沙	希	君
13番	谷		和	哉	君
14番	高	杉	光	咲	君
15番	石	川	悠	弥	君
16番	田	中	柚	香	君
17番	小	川	莉	奈	君
18番	園	田		碧	君
19番	金	丸	青里	香	君
20番	人	見		健	君
21番	石	田	舞	奈	君
22番	井	上	南風	美	君
23番	飯	島	章	裕	君

2 本日の出席説明員 16名

市	長	遠藤	三紀夫	君
副	市長	小俣	博	君
教	育	金子	慎之輔	君
秘	書室	今福	弘	君

企 画 財 政 部 長	宮 代 孝 男 君
総 務 部 長	片 野 廣 史 君
市 民 部 長	清 田 栄 君
環 境 経 済 部 長	本 多 菊 男 君
保 健 福 祉 部 長	田 中 治 君
都 市 部 長	和 田 永 一 郎 君
上 下 水 道 部 長	佐 藤 修 一 君
消 防 長	林 正 純 君
議 会 事 務 局 長	飯 田 敏 夫 君
教 育 部 長	中 村 咲 男 君
選 挙 管 理 委 員 会	鈴 木 春 雄 君
事 務 局 長	
監 査 委 員 事 務 局 長	栗 原 正 佳 君
会 計 管 理 者	太 田 滋 子 君

3 本日の事務局職員出席者

政 策 課 長	山 本 隆 和
政 策 係 長	石 川 俊 寛
教 育 指 導 課	日 極 忠
副 主 幹 兼 指 導 係 長	
議 会 事 務 局 主 任	村 松 博 行

4 本日の議事日程

議 事 日 程 第 1 号

平成21年ざま子ども議会 第1日
平成21年8月20日(木) 午後1時40分

日程第1 議席の指定

日程第2 会議録署名議員の指名

日程第 3 会期の決定

日程第 4 一般質問

日程第 5 議員提出議案第 1 号 ざま子ども議会宣言

5 本日の会議に付した事件

日程第 1～日程第 5 議事日程に同じ

6 開会（午後 1 時 4 0 分）

●議長（高杉光咲君）

こんにちは、これより平成 21 年ざま子ども議会を開会します。

開会にあたり議長としてあいさつをいたします。私は、本日の議長を務めます、東中学校 3 年の高杉光咲です。平成 23 年からの新しい総合計画を策定するにあたって、私達の住む座間市の明日に向け、新たなメッセージを発信することとなるよう希望します。

子ども議員の皆さんには、将来の座間市の夢や希望に満ちた質問や意見発表をお願いいたします。

また、私達子ども議員から出されます質問や意見発表に対し、市長さんをはじめ皆様の温かい答弁をいただきますようお願いします。

ただいまから、本日の会議を開きます。

これより、議事日程に入ります。

日程第 1 議席の指定を行います。

議席は、ただいま着席のとおり指定いたします。



日程第 2 会期の決定の件を議題とします。

お諮りいたします。本会議の会期は、本日 1 日といたしたいと思っております。

これにご異議ありませんか。

●議員（全員） （異議なし」との声あり）

●議長（高杉光咲君）

ご異議ありませんので、本会議の会期は、本日 1 日と決定しました。

日程第3 会議録署名議員の指名を行います。

本日の会議録署名議員は、3番板垣徹議員、6番佐藤里奈議員を指名します。

7 一般質問

●議長（高杉光咲君）

日程第4 一般質問を行います。

質問に先立ち、質問時間、質問回数、及び答弁時間について説明します。

議事進行の都合により、本日の質問についての各議員の発言は3分以内とし、質問回数は1回とします。なお、質問に対する答弁は3分以内でお願いします。

これより、通告書に従い質問を許可します。

最初に、1番^{ひしぬま}菱沼^{あれん}阿連議員。

[1番（菱沼 阿連君） 登壇]

●1番（菱沼阿連君）

1番東中学校3年の菱沼阿連です。

僕の中学校での学校年間目標は「過ごしやすい学校」というものなのですが、この年間目標を決める前に全校生徒にアンケートをとりました。

その中の質問に「みなさんの思う良い学校とはなんですか？」の質問に対し、一番多く出てきたのは、あいさつができる学校でした。

この結果から生徒が一番に求めているのはあいさつだということが分かりました。

あいさつの重要性について、たった一回のあいさつ一言でその人の印象は変わるものです。おはようございます、「はじめまして」と声をお互い交わしコミュニケーションをとることによって生活的、社会的環境において良いものになると僕は思います。そして、あいさつは、これから大人になって社会にでたとき、必要になってきます。

それを考え、僕たちの学校では自然にあいさつ等ができない生徒が多いことから、毎年、生徒会本部を中心に昇降口の前に立って「おはようございます」とあいさつをするあいさつ運動というものを行っています。

毎回活動してあいさつを返してくれる人数が増えているということから、このあいさつ運動というのはとても効果があるものだと僕は感じています。座間市でも、住民と市はお互い連携をとるためにも共生するひとつの共同体としてお互いのコミュニケーションをとる、信頼しあうことが必要だと僕は思います。

そこで、座間市では、このような効果的な取り組みや市民との交流、コミュニケーションをどのようにはかっているのでしょうか？



回答をお願いします。

●議長（高杉光咲君） 市長。

〔市長（遠藤 三紀夫君） 登壇〕

●市長（遠藤三紀夫君）

ただ今、菱沼議員から大変大切な点についてお尋ねをいただきました。

まず、最初に、学校であいさつ運動を行っているとのことで、大変素晴らしいことであると本当に心から感心をいたしたところです。これからもぜひ続けて行っていただきたいと思います。

あいさつは、言うまでもなく、人と人とのコミュニケーションの基本です。友達どうし、ご近所の人どうし、さらにはすれ違った人どうし、あいさつを交わすことによってそれぞれの人の気持ちがなごんで、明るく、さわやかな気持ちになれる、こうした経験は、それぞれ今日ここにお越しにいただいている議員のみなさんもお持ちだと思います。例えば山登りに行ったときに、自然に「おはようございます」「こんにちは」 頑張ってくださいね」という声かけられ、それによって元気をいただくということがあろうかと思えます。

わたしども市役所の職員も、こうした原点に帰って、日頃から市民の皆さんとあいさつを交わし、そうした礼儀を大切にするように努力をし、また、お願いをしているところです。

さて、ご質問の市民との交流やコミュニケーションをどのように図っているかということでございますけれども、この座間市をどのようにしたら、より住みやすく魅力的なまちになるかと考えるときに、市役所だけでは、良いまちには、当然できないわけです。座間市に住み、暮らしている市民の皆さんと一緒にこれからのまちを考え、協力し合っこそ、初めて良いまちづくりができるものだと思います。

このことは大変重要なことですので、市では2年前に「協働まちづくり条例」という、市民の皆さんと一緒にまちづくりをするためのルールを作りました。このルールに従って、市役所職員一同、まちづくりをするとき、いろいろな方法で市民の皆さんの意見を聴き、それをまちづくりに活かしていくよう行動しています。

今日の子ども議会、これもこうした考え、願いの一つとして、開催されたものをご理解いただきたいと思います。

これから総合計画という大切なまちの計画を作るわけですが、この計画を作るうえでも、市民の皆さんとのコミュニケーションはたいへん大切であり、なくてはならないものと考えています。

もっともっとお互いにコミュニケーションをとって、相手を思いやり、相手の立場に

立って、行動をしていく、それを計画にし、このまちづくりに役立てていく、そのような姿勢をとり、また、このまち自体がそのようなまちにできるように頑張ってもらいたいと思います。よろしくお願いいたします。

●議長（高杉光咲君） 以上で、菱沼阿連議員の一般質問を終わります。

つづきまして、2番^{あおき}青木^{さいや}彩弥議員。

[2番（青木 彩弥君） 登壇]

●2番（青木彩弥君）

2番南中学校3年の青木彩弥です。

私は、座間市の生活環境について質問します。

座間市内には、なぜ、総合病院がないのでしょうか。

全体的に病院も少ないですが、病気やけがをしたときに、他の市の病院に行かなくてはなりません。緊急のとき、近くに大きな病院がないと、安心して生活することもできないと思います。

また、「広報ぎま」で座間市にずっと住みたいと思う人の割合は、全体の5～6割程度ということを知りました。

やはり、病院が少ないというのは、私たち市民にとって、生活していく上での不安要素の1つになってしまうのではないのでしょうか。

座間市のこれからの方針についてお聞かせください。



●議長（高杉光咲君） 保健福祉部長。

[保健福祉部長（田中 治君） 登壇]

●保健福祉部長（田中治君）

青木議員のご提言のとおり、自分の家のすぐ近くに総合病院があれば、安心・安全な日常生活がおくれる。誰もが思い、望むことでしょう。座間市としても、総合病院があればいいと思います。しかし、病院も簡単につくれるものではありません。医師や用地の確保を含む財政的なこと、近隣住民の理解など多くの課題があります。また、民間病院では、「できるだけ大勢の人が来てくれる場所に病院をつくりたい」といった経済的な考え方もありますから、座間市が望んでも市内に病院をつくってくれるとは限りません。

さらなる課題につきましては、市とか、町とか、村の範囲と違った。県が決めた、座間市ですと隣接いたします厚木市、大和市、海老名市、綾瀬市、愛川町、清川村を1つとした「県央二次保健医療圏」というものがあります。これは、神奈川県の実情に合っ

た質の高い効率的な保健医療の提供体制を整備していくため、県が「神奈川県保健医療計画」という計画を作っております。その地域的な単位として一次から三次までの保健医療圏を設定したものです。この保健医療圏の中の病院の数を決めているのが国です。現在この県央医療圏は、病床過剰地域、いわゆる「病院が多すぎる地域」とされており、この医療圏に病院をつくることができなくなっております。

座間市も病院が減り平成 18 年度に 5 つあったのが、現在では 2 病院になっております。病院が減った大きな原因は医師不足、看護師不足と言われ、中でも救急医療は、夜間から深夜まで続く激務や裁判所に訴えられるという事件が発生しやすいことから救急医療に携わってくれる医師も少なくなり、さらに医師が足りない状況です。

座間市では国に医師不足、看護師不足の解決を要望しているところです。また、近隣の海老名市や厚木市、大和市にもご協力をいただいて、皆さんが急病のときにいける病院の確保に努めています。

こうした、状況は座間市だけではありません。今後は、大和市の人も海老名市の人も自分の地域から離れた病院を利用する「広域医療体制」となる可能性もあります。しかし、広域といっても、人の命が救えないような遠くでは困るわけですから、これ以上病院が減らないよう、できるだけ早く、国や県や市、そして医療機関にも協力していただき、皆さんがずっと住み続けたいと思えるまちにしていきたいと考えています。

●議長（高杉光咲君） 以上で、青木彩弥議員の一般質問を終わります。

つづきまして、3番^{いたがき}板垣^{とおる}徹議員。

[3番（板垣徹君） 登壇]

●3番（板垣 徹君）

3番栗原中学校3年板垣 徹です。

僕は、座間市の環境について質問します。

栗原中学校では、ゴミ拾い登校という活動を一学期に行いました。この活動は、登校してくる時にゴミを拾う活動で、とてもたくさんのゴミが集まりました。中には、壊れて骨だけになったカサなどもありました。日頃はあまり意識していないため、あまりゴミがそこらじゅうに落ちているようには思いませんが、人目につかない草陰などゴミが捨ててあったりします。また、人が通らないような場所には大きなゴミが不法投棄されたりしています。僕は中学一年生の頃、職業体験でゴミの収集を行ったのですが、決められたルール通りに出されていなく、回収できなかつたり、ちゃんとゴミ袋に入っておらず、どうしてもちらかってしまうゴミなどもありました。また、ゴミを回



収した後に捨てられたゴミなどもたくさんありました。

僕たち中学生だけではゴミ拾いや自ら気を付けることしかできません。

座間を今よりもっと住み心地の良いまちにするために、何か考えていることはありますか。また、このような現状をどう思いますか。回答をお願いします。

●議長（高杉光咲君） 環境経済部長。

[環境経済部長（本多 菊男君） 登壇]

●環境経済部長（本多菊男君）

板垣議員のご質問にお答えいたします。

いつも、ごみ拾い登校として通学路のごみ拾いなどをしていただき、ありがとうございます。

言われるとおり、人目につかない場所への不法投棄やルールを守らずに決められたものの以外のを捨てられていることがよくあります。

市としても、燃えるごみや燃えないごみを集める日を決めた「収集カレンダー」やプラスチックや布などに分けるための「ごみの分別ガイド」を全部の家に配ったり、広報ざまなどでごみの出し方をお願いしています。また、ルール違反の多いごみ集積所には、貼り紙や看板などを付けてルールを守るようお願いをしています。

もちろん、ルールを守っていただいている皆さんがほとんどですが、中には守ってもらえない人もいます。

そのために多くの皆さんが迷惑をしていることはたいへん残念なことです。

そのようなことから、これから、町をきれいにしていくために、どうしたらもっとごみを減らすことが出来るのか、リサイクル出来る物の集め方やもっとルールを守ってもらえるようにするにはどうしたら良いのかなどについて、色々と考えていかなければいけないと思っています。

最後に、これからも、ごみ拾い登校を続けてください。出来れば他の学校にも声をかけていただいて、全ての学校でごみ拾い登校をしていただければ、素晴らしいことだと思います。座間市を不法投棄などのごみのないきれいな住みよいまちにするために、一緒に頑張っていきたいと思います。以上です。

●議長（高杉光咲君） 以上で、板垣 徹議員の一般質問を終わります。

つづきまして、4番吉岡^{よしおか} 和香^{わか}奈^な議員。

[4番（吉岡 和香奈君） 登壇]

●4 番(吉岡 和香奈君)

4 番南中学校 3 年吉岡 和香奈です。

私は、座間市の環境問題に対する取り組みについて質問します。

南中学校では、今年度、環境や環境問題への関心を持ち、地球にやさしい活動を継続的に実践する「レッツトライひまわり環境 I S O」活動に取り組むことになりました。I S O 活動の一環として、生徒会ではペットボトルキャップを集めたり、各教室で紙ごみの分別をしてリサイクルしたり、地球環境を守るために自分たちができることに取り組んでいます。座間市ではどのような環境対策をしているのか教えてください。



また、市の自然環境も環境のひとつですが、座間の自然を守るために、市ではどのような取り組みをしているのか教えてください。

●議長(高杉光咲君) 都市部長。

[都市部長 (和田永一郎君) 登壇]

●都市部長(和田永一郎君)

吉岡議員の南中学校では、地球環境を守るため、「レッツトライひまわり環境 I S O」活動に取り組んでいるというお話をいただきました。素晴らしい活動だと思います。是非、これからも続けていっていただきたいと思います。

それでは、吉岡議員から座間の自然を守るために、市ではどのような取り組みをしているのかというご質問をいただきましたので、お答えいたします。

座間の自然を守るために、市ではさまざまな取り組みを行っておりますが、その中で、代表的なものを 2、3 お話しさせていただきます。

まず、座間市の貴重な自然のひとつに湧き水が挙げられます。湧き水の量を減らさないようにするためには、雨水を十分に地下にしみこむようにすることが重要になります。

雨水が十分地下にしみこむようにするためには、座間市では建物を建てる時には、屋根に降った雨水をしみこませる施設を設置するようお願いしています。また、一般住宅にそのような施設を設置する方には、市から補助金を出して設置をすすめています。

次に緑地についての取り組みですが、都市における緑地が住民の健康で文化的な生活に欠くことのできないもので、緑地が適正に確保されるよう必要な措置を講ずることを目的としました「都市緑地法」という法律に基づき、相模川特別緑地保全地区として平成 5 年に神奈川県により約 10.3 ヘクタールを決定していただき、特別緑地保全地区内の緑地や樹木地を保全しています。

また、特別緑地保全地区以外の市内の良好な樹林地等につきましても、座間市緑の保全及び緑化の推進に関する条例」という座間市の条例により、地主さん達に協力をして

いただきながら樹木保全地域約16.5ヘクタールを指定して、保全をしています。

その他、最近の一例として、平成20年度より南栗原四丁目にあります、周りを樹木で囲まれた湧水の出る地域一体を良好な自然環境地として「いっぺい窪緑地」と位置付け地主さん達の協力を得て、長い期間にわたり土地を借りる契約を結び保全をしています。

このように、地下水や緑地を市民共有の財産として、自然環境の保全に取り組んでおります。今後も座間の自然を守るため、努力をしております。

●議長(高杉光咲君) 以上で、吉岡 和香奈議員の一般質問を終わります。

つづきまして、5番^{あだち}安達^{みゆ}未悠議員。

[5番(安達 未悠君) 登壇]

●5番(安達 未悠君)

5番相模中学校安達 未悠です。

最近、環境問題がテレビで話題となっている中、私の生活では環境に対して少し変化があります。例えば、家電を買い替えるときは、省エネ家電を選んだり、どこかへ出かける際、車は使わず、自転車を使ったり、歩いて行ったりします。私だけでなく、まわりの友達も、冷房は使わずに、扇風機を使ったり、冷房を使用したとしても、温度を26～28℃くらいまで上げ、環境へ配慮するようになりました。このように環境問題のことを少しでも考えている生徒が相模中にもたくさんいますが、座間市では環境問題の対策としてどのようなことを行っていますか。



答弁よろしく申し上げます。

●議長(高杉光咲君) 総務部長。

[総務部長(片野廣史君) 登壇]

●総務部長(片野廣史君)

ただ今、安達議員さんから、環境問題の対策についてご質問をいただきました。⑤答弁をさせていただきます。

座間市では、市役所が自ら行う環境問題の対策として、平成9年11月に「座間市環境保全行政施策推進指針」というものを作らせていただきました。この中には、緑、水、大気、資源、廃棄物、そして環境学習の5つの取るべき態度や進むべき方針を示す指針を作っております。そして、この指針に基づきまして、市民の皆さんや会社が市役所と一体となって良好な環境を作るために、市としての行動計画書を作成しております。

その中には、環境目標を掲げて「出来るものを、できることから」を基本に市が目指すべき方向へ向かうため、また、夢を実現するために取り組んでおります。

そして、平成13年6月にISO14001という国際規格に基づいて、環境への影響を継続的に改善していく仕組みとして「座間市環境マネジメントシステム」を定めさせていただきました。

このシステムは、目標実現のために計画し、実施及び運用を行い、その結果を点検及び是正し、もし不都合があったなら、それを見直し、もう一度計画を立てるというPlan（計画）を、Do（実行）し、Check（評価）して、Act（改善）の流れを順に実施する、今お話を申しあげました頭文字を取りまして、PDCAサイクルを組み立てております。

最初は市役所と消防署から始めまして、徐々に対象となる施設を増やしたわけですが、更に、同じ時期にほぼ全ての公共施設を対象とした「座間市地球温暖化防止計画」を策定したものでございます。これらによって、市役所と消防署・図書館・保育園などの公共施設の電気・ガス・水道・ガソリン・紙などの削減を行いながら、ゴミの分別の徹底も図っております。

なお、紙の使用量削減の効果として導入前のものと比較しますと、年間でA3の用紙およそ50万枚の削減です。オーストラリアに生息していますコアラが食べるユーカリの木で換算しますと、約77本の木を使用しなくて済んだ計算になります。

次に、環境に配慮した市役所の具体的な行動策として特に、電気の使用につきまして、お話をさせていただきますと、まず、やむを得ない場合を除き極力エレベーターには乗らない。次に、エアコンの設定温度を夏は28度、冬は20度を目安にし、冷えすぎや暑すぎにならないよう室内温度を調整しています。また、照明は必要に応じて点灯・消灯など、こまめな調整を心がけております。このようないろいろなことを実施しております。

このように座間市では、省エネ、廃棄物削減などにより、環境への悪影響を減らすためにいろいろ取り組んでおります。

安達議員さんも日頃の生活の中で、絶えずこの環境への配慮という意識を持った中で、今後も活動していただければと思っております。以上でございます。

●議長（高杉光咲君） 以上で、安達 未悠議員の一般質問を終わります。

つづきまして、6番^{さとう}佐藤^{りな}里奈議員。

[6番（佐藤 里奈君） 登壇]

●6 番(佐藤 里奈君)

私は食品ゴミのリサイクルについて質問します。

昨年新聞の記事によると、横浜では市内ほとんどの小学校の生ゴミ、年間1860トン回収業者が収集して、飼料センターに運び、それを豚や鶏の粉末エサに加工して穀物と混ぜ、農家に運んで再利用しているそうです。

私が通っている栗原小学校では、食べ残しが減るように担任の先生が声をかけてくださったり、生ゴミ処理機を使って、残った給食のリサイクルを行ったりしています。

食べ物を残さないようにする努力と、残ってしまった食品ゴミを有効活用することは、環境に優しく、とても大事なことだと私は思います。

現在、座間市では、生ゴミ処理機を購入するときに、補助金制度を利用でき、食品ゴミを家庭で堆肥にすることで、ゴミの減量化を図っていますが、今後、新たに食品ゴミのリサイクルに取り組む計画があれば教えてください。



●議長(高杉光咲君) 市長。

[市長(遠藤 三紀夫君) 登壇]

●市長(遠藤 三紀夫君)

ただ今、佐藤議員から食品ごみのリサイクルについての質問をいただきました。具体的な取り組みについても、よくご理解をいただいております、大変ありがたいと思っております。

この問題を考えるときに、私は「もったいない」という言葉が頭に浮かびます。「もったいない」という言葉はみなさんもお存知のことだと思いますけれども、この言葉の持つ意味のすばらしさ、すなわち物を大切に作る心、感謝をする心、そしてそれを謙虚に受け止める心、こうした気持ちが込められたこの言葉は、今、環境問題が世界的に大変心配される中で、世界中に広がっている日本語になっています。

しかしながら、みなさんも日頃経験されているように、いっぱい食べ残しが出ています。

日本全体で見ますと、聞くところによりますと、平成19年度の調査では、日本全体で1年間で約2,000万トンという残飯、食べ残しが出ているというふうに伺っております。これは、世界一とも言われています。

お隣の韓国でも、やはり、700万トンくらいの食べ残しが出ていて、この食べ残しがあれば、北朝鮮の皆さんが飢えないでもすむという話も聞いたことがございます。

この2,000万トンという量は、たとえば、一日3回食事をする内の1回分が捨てられちゃっているという、このような大量の数字になっているのです。

また、これは皆さん、新聞やテレビでご覧になったり読んだことがあると思いますけれども、今、日本の国の中でどのくらいの食料を生産することができるかを示す食料自給率というものが、だいたい40%位で、すなわち、皆さんが食べている量の半分以上は外国から買っている、外国の皆さんに頼っているということになります。

このようなことから、ごみのリサイクル、それ以前に、私たちは、まず、自分たちの生活を見直して、この「もったいない」、日頃の生活を見直していかなければならないのではないのかなと思うわけです。

しかしながら、実際に出てきたこのゴミ、生ゴミ、そして残飯、この減量化、これをまず取り組んで、それからリサイクル、これも大変大切なことになります。

横浜市の小学校の話をしていただきましたけれども、座間市でも11の小学校全部で生ごみ処理機を置かせていただいて、学校給食から出てきた生ごみを飼料などにして再利用すること、そうした取り組みをさせていただいております。

また、市立保育園や市営住宅の一部でも、生ごみ処理機を置かせていただいて、生ごみのリサイクルをしています。

これから、出てくるゴミの中でも使い終わった食用油を集めて、資源として再利用できないだろうか、そうしたことについて、集め方や集めた油を置いておく場所、どうやって資源として作り直していくのか、こういったことについても考えていきたいと思っています。

まちをあげて、そして皆さん一人ひとりの心がけの中で、できるだけものを大切にす、そしてゴミを出さないようにする、出てきてしまったゴミについては、地球の環境に返していく、こうした取り組みをいろいろ考えていきたいと思っています。どうか皆さんもご協力よろしく願いいたします。

●議長（高杉光咲君） 以上で、佐藤 里奈議員の一般質問を終わります。

つづきまして、7番^{みうら}三浦^{えいち}栄一議員。

[7番（三浦 栄一君） 登壇]

●7番（三浦 栄一君）

7番座間小学校6年三浦 栄一です。

僕は、自然と環境について質問します。

座間小学校の周りには、多くの緑があり、木や花、自然がいっぱいの環境で学ぶことができます。その自然を大切にしたいと思い、



僕は、児童会役員として、座間小学校の皆さんに、自然を増やし、守るために、環境への取り組みを公約としてあげました。その一つとして、しばらくの間枯れていた池を復活させ、みんなでめだかを育てようという活動に取り組みました。全校に募集して、池の名前を考え、その場所の名前も考えました。そして、「座間っ子広場」と「メダカの学校」に決まり、その場所やメダカを大切に育てようと約束も決めました。今、広場には花がたくさん育ち、池にはメダカも200匹元気に泳いでいます。園芸委員会や環境委員会と協力しながら、花やメダカが元気に育つための活動は今後も続けます。

夏の暑い日、大きく茂った木々の下は涼しく、ホッとします。花や木、生き物が育つ学校で、みんなの心がやさしくなればいいなあと願っています。座間小学校のまわりの家もたくさんのお木々や花が育てられ、自然の環境を大切にしてくださっていることが伝わってきます。

さて、そこで、座間市に質問します。

夏の暑い時期、学校以外の施設や各家庭ではエアコンをつけて電気を使い、温風も吹き出し、一歩外に出ると、モワッとした空気に包まれます。

人間だけでなく、草花も辛そうです。そこで、部屋の暑さを少しでもやわらげ、エアコンの温度を下げる手段として、植物を使うことはどうでしょうか。具体的には、ぼくの学校でも取り組みがありましたが、グリーンカーテンを提案します。いろいろなところで緑がしげり、日かげを作っていくことで、涼しさと心のいやしにもつながり、また電力量や温室効果ガスを減らすことにも、少しは貢献できるのではないのでしょうか。そして、その普及のために、ツルを伸ばす植物の苗や種を市民に配り、育て方を講習するという取り組みは、どうでしょうか。緑を増やし、環境にもやさしくできます。

自然を大切にしている座間市として、自然を活用して、環境を守っていくという発想で、提案させていただきます。回答をよろしく願いいたします。

●議長（高杉光咲君） 環境経済部長。

[環境経済部長（本多菊男君） 登壇]

●環境経済部長（本多菊男君）

三浦議員の質問にお答えいたします。

朝顔やゴーヤなどのツル性植物を窓の前にネットなどをかけて育てると、グリーンカーテンとなって夏の日差しがさえぎられて、部屋の温度が下がると言われております。

三浦議員が通っている座間小学校では、レッツトライひまわり環境ISOの取り組みの一つとしてグリーンカーテンを作ったんだと思います。ほかの学校でも同様にグリーンカーテンに取り組んでおります。

さて、三浦議員が提案してくれたグリーンカーテンの作り方の講習会や種を配ること

などについてですが、実は市としても、とても良いことだとして、取り組みを始めたところだったのです。

今年の4月29日の昭和の日に、かみが沢公園で開催された座間市緑化まつりで、朝顔の種とグリーンカーテンの説明書を配りました。それと、今年の6月30日に開催された環境講演会では、市民の皆さんに集まっていたいて「アサガオを植えて地球温暖化対策を！」というテーマにグリーンカーテンの効果について、実験を交えて講演をし、最後に参加者全員に朝顔の苗を配り、グリーンカーテンの取り組みをお願いしたところ
です。

取り組みとしてはまだ始めたばかりですが、今後は三浦議員の提案を生かして、少しでもグリーンカーテンを広めることができるようにしていきたいと思います。以上です。

●議長（高杉光咲君） 以上で、三浦 栄一議員の一般質問を終わります。

つづきまして、8番^{かねお}金尾^{ゆうだい} 雄大議員。

[8番（金尾 雄大君） 登壇]

●8番（金尾 雄大君）

8番中原小学校6年金尾 雄大です。

僕は座間の環境の取り組みについて質問します。僕たち中原小学校は「レッツトライひまわり環境ISO」に認定されて、3年目になります。中原小学校も今年から飼育園芸委員会から生まれ変わり、環境委員会を中心としてエコキップ運動など環境問題を意識した中原小学校になっています。



しかし、地域ではどうでしょうか？僕の最寄りの駅は座間駅ですが、その通りの道のゴミ捨て場には、古いラジオや生ゴミが袋に入っていないでそのままなど、とても通っていていやになります。なんでもゴミ捨て場に捨てていいわけではありません。曜日がきちんと決まっているのに、なぜ関係なく捨てるだろうと不思議です。また、ごみが散乱しているのは、この場所だけに限らず座間市でもとてつもない量になってしまいます。みんな座間のことが大好きなのに、なんでこんなことをするのだろうと疑問に思います。

道路にゴミが沢山おちているのを見たとき、どんな気持ちになりますか？それらのゴミを減らしていくための方法や平気でゴミを捨てる人への呼びかける方法を考えていたら教えてください。

また、「レッツトライひまわり環境ISO」はなぜできたのか教えてください。

●議長（高杉光咲君） 教育部長。

●教育部長（中村咲男君）

金尾議員さんからゴミの集積所が乱雑になっているその対応策と学校で取り組んでいる「レッツトライひまわり環境ISO」についてのご質問を頂きましたのでお答えいたします。

まず、ゴミの集積場の件でございますが、金尾議員さんが言われるとおり、ゴミの集積所にルールを守らずに決められたもの以外のものが捨てられていることがあるわけでございます。

市といたしましても、その対策として、前任の板垣議員さんにもお話をしたわけでございますが、燃えるごみや資源物を集める日を、わかり易く書いた「収集カレンダー」やごみと資源に分けるための「ごみの分別ガイド」を全ての家庭にそういったものを配っております。また、月2回座間市で発行しております「広報ざま」、そういったものによって、ごみの出し方についてお願いしています。

さらに、自治会から推薦されましたゴミ出しのルールを指導する人に巡回をしていただいている状況もございます。

ゴミ出しのルールを守っていただくということは、何回もお知らせをし、理解していただくということが重要なのかな、とこのように思っております。これからも、どうしたらルール違反のごみを減らすことが出来るか、色々と考えていかなければいけないと思っておりますので、是非、皆さんもご協力のほどよろしくお願いいたします。

続きまして、学校で取り組んでいる「レッツトライひまわり環境ISO」についての件でございますが、皆さんもよく知っている通り、今、地球温暖化をはじめ、様々な環境問題が報告されています。私たちは、少しでも環境を良くしていくために、お互いに努力していくことが大切だと思っております。座間市では、そのために平成13年にISO14001という国際的な環境のマネジメントシステムの認証を取得して、市民の皆さんの協力を受けて、環境問題に取り組んでいるところでございます。

そこで、学校で生活している皆さんも一緒に環境問題への関心を持ち、環境にやさしい活動を行っていきましょう」ということで、平成19年度に始まったのが学校版の環境への取り組みであります「レッツトライひまわり環境ISO」です。

平成19年度は、市内で11校の参加でございましたが、20年度は15校、そして今年は、新たに2校が加わり、座間市の全部の小中学校に認定証をお渡ししています。

このような認定証が、みなさんの学校にもあると思います。

ぜひ、これからも皆さんが環境の問題に関心を持ち、環境に対する正しい認識を深めて、省エネ・省資源・リサイクルに取り組んでほしいと考えています。そして、

この取り組みで大切なことは、一つでも二つでも目標を持って、自分の身の回りのできることから取り組むべきと考えています。

私たちの地球をまもっていくために、将来の座間市を背負っていく皆さんと一緒にがんばっていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

●議長（高杉光咲君） 以上で、金尾 雄大議員の一般質問を終わります。

つづきまして、9番^{やまぐち}山口 ^{なお}菜穂議員。

[9番（山口 菜穂君） 登壇]

●9番（山口 菜穂君）

9番西中学校3年の山口 菜穂です。

私は、環境について質問します。

現在、私たちの学校では、生徒会が中心となり、ペットボトルキャップの回収運動を行っています。確かにかなりの数のキャップが集まっているのですが、参加してくれている生徒は、ほんの一握り程度しかいません。また、これからは、学校周辺の地域の方々にもたくさん参加していただきたいと思っています。なので、市全体でそのような活動に協力推進をしていただけるような運動を行ってもらえないでしょうか。

これに関連して、最近登下校の際、通学路に落ちているゴミを見かけます。

私たちが通う西中学校の周りは、たくさんの畑や水田が広がっています。その中や水路にまでも様々なゴミが落ちています。このままでは、美しい風景やそこに住む生物にも影響が出てきてしまうのではないかと心配です。なので、市内各所に分別やリサイクルの行いやすいゴミ箱の設置をしていただいたり、市全体で積極的に美化に取り組めるような活動を増やしていただくことはできないでしょうか？

私は、これからの地球環境の改善は、座間市の緑が多く、夏には美しいヒマワリを見ることができる風景を守っていくためにも、とても重要なことだと考えています。なので、ぜひ、座間市のお考えを聞かせていただきたいと思います。

以上で、環境についての質問を終わります。ご回答をよろしくお願いいたします。

●議長（高杉光咲君） 副市長。

[副市長（小俣 博君） 登壇]

●副市長（小俣 博君）

山口議員さんからリサイクル活動を学校で実施しているというお話をいただきまして、その活動に対しまして非常にありがたい活動だというふうに思っております。

始めにありました、ペットボトルのキャップの回収の関係でございますけれども、私どもの市内でいろいろな団体が活動しております。今、山口議員がおっしゃった活動と同じような内容だと思いますけれども、市内のいろいろな団体が、例えばペットボトルのキャップを集めまして、それを売ったお金でワクチンを買って、世界の子どもたちにお分けをする、そのことによって多くの命が救われる、こういう活動をしているところもあります。このようなりサイクル活動が、ワクチンに変われば、人の命を救えるという大変すばらしいことだと思っております。

市役所の中にも、そういう団体から箱を置かしてほしいというお話がありまして、保健医療課という所の前に置いてあります。相当集まって来ておると聞いています。そのようなことなどを努力させていただいております。

次に、市内の各場所に分別やりサイクルのしやすいごみ箱を設置することについて提案がございました。いい提案だと思います。

ただ、設置する場所をどうしようか、それから、その中にゴミが入るわけですから、どのようにして回収しようか、などそんな課題もあるようでございます。ですから、みなさんと色々考えていきたいと思っております。

それから、山口議員さんがお住まいの西中の周辺ですけれども、私も西中の周辺に住んでおります。おっしゃっていらっしゃる通り、田園がありまして、環境はすばらしいところだというふうに、私も住んでいて誇りに思っています。

その登校の際に、よく見ますと、田んぼの中とか、川とか、そういうところにゴミが投げ捨てられているということでありまして、おっしゃるように自然の破壊をしている人がいるということございまして、こういうことについては、市の取り組んでいる美化活動は、どんなものがあるかということございまして。

一緒に参加していただいている方もおいでだろうと思っておりますけれども、毎年、相模川のクリーン作戦ということをやっています。今年も9月の始めの日曜日に行いますけれども、多くの子ども達にも参加していただいて、ゴミを集めて、美化の思想を考えていただくということを行っているところです。

あるいは、先ほども出ていましたけれども、生ごみ処理機を買う時に補助金を出したり、ごみを減らしていきたいと考えております。

特に、先ほど出ていました田畑へのゴミ、そういう関係については、農家の皆さんにとっては、田んぼは生活を支えていくための、いわゆる大切な職場なんですね、ですから、そういうところには、ものを投げないということを心がけていただきたいと思っております。これは、市としては、もっともっとPRしていかなければならないというふうに考えております。

4番の吉岡さんだっただと思っておりますが、地球環境や自然環境とかのお話がございました。

いずれにいたしましても、ゴミだとか、環境だとか、そういった問題は市民総ぐるみで、取り組んでいかなくちゃいけないというふうに思っております。

お話にありましたとおり、山口議員さん、そういうところに非常に重要性を感じておられまして、この問題は非常に大きい問題だと捉えておられます。これからも関心を持って、一緒に取り組んでいきたいと思っております。

ありがとうございました。

●議長（高杉光咲君） 以上で、山口 菜穂議員の一般質問を終わります。

つづきまして、10番山内^{やまうち} 実咲^{みさき}議員。

[10番（山内 実咲君） 登壇]

●10番（山内 実咲君）

10番西中学校の山内実咲です。

私は、安全安心について、2つ質問します。

最近、私の学区内で不審者や変質者の情報をよく聞きます。

校舎内に進入した変質者もいます。身近では、私の友達が下校途中、バイクに乗った変質者が近寄ってきたということもありました。

座間市には、子供が危険な目に遭ったときにつけこめる「子供110番の家」があります。しかし、実際のところ、「子供110番の家」につけこんだという話は聞いたことがありません。現在、座間市には、「子供110番の家」が何軒あり、実際に駆け込んだ人は年間に何人くらいいるのでしょうか。また、どういう基準を元に「子供110番の家」が設置されているのか、そしてどのように機能しているのでしょうか。

ご回答ください。

また、座間市では、「学校安全対策嘱託員」を配置されているということを知りました。

私たちが毎日、登下校時にこのような人がいると安心しますが、現実には嘱託員の存在が分かりません。どのような活動を行っているのでしょうか。

また、学校でも不審者や変質者の情報を聞くことが多く、減少しているとは思えません。「学校安全対策嘱託員」の配置による効果をご回答ください。

●議長（高杉光咲君） 教育部長。

[教育部長（中村咲男君） 登壇]

●教育部長（中村咲男君）

山内議員のご質問にお答えさせていただきます。



まず、「子ども110番の家」の関係でございますが、座間市では、不審者からの声かけ、わいせつ、つきまとい、そういったことから、子どもを守るための緊急避難場所としての「子ども110番の家」の制度を、9年前の平成12年から開始いたしました。

現在、市内各地域の「青少年健全育成連絡協議会」という団体が活動主体になり、今年の4月現在では1,901件の登録がございます。

一般の個人住宅をはじめ、商店、工場、会社、市内各公共施設など様々な場所に設置されています。

設置に関わる登録につきましては、基本的に市民の皆さまのボランティア精神によるものでございます。今後も安心安全のまちづくりのために、より多くの設置を目指し、「子ども110番の家」のボランティアを募集して参ります。

また、平成12年の事業開始から、現在まで、実際に緊急時に避難した件数は、幸いに数件程度でございますが、緊急事態が生じた場合には「子供110番の家」に遠慮なく避難をしていただき、危険な目に遭わないようにしていただきたいと思っております。

避難場所として登録されている家の方などには、避難してきた子どもの保護、「警察への通報」、「保護者等への連絡、引き渡し」といったことをよくお願いしています。

緊急避難以外に「子ども110番の家」ステッカーは、犯罪防止の機能も持っています。

不審者などがステッカーを見て、「この街では悪いことはできないぞ」と思うような犯罪抑止効果も期待しています。そのようなことから、街中に「子ども110番の家」をより一層、増やしていきたいと考えております。

さらに、「学校安全対策嘱託員」さんについての質問をいただきました。

小学校や中学校に通学している皆さんは、何度も先生から不審者への対応について指導されていると思っております。

また、そのようなお便りを家庭に持ち帰った時には、家族や地域の皆さんも、ご心配をされているのではないかと考えています。

不審者対策については、縁の下の力持ちのように、活動してくれている人がいます。その1つが、今回質問いただきました「学校安全対策嘱託員」さんでございまして、警察を退職された方を1名配属しております。

その活動内容としては、下校時には皆さんが安心して自宅に帰れるように、通学路を巡回している力強い存在であります。

また、日中は学校の敷地内や周辺で危険なことがないかを確認したり、不審者が出没した時には、その地域に直ぐに出向き、周辺の状況を見守っていただいております。

授業中なので知らないかもしれませんが、皆さんの学校にも訪問しています。

具体的な効果ということでございますけれども、最近の例でいえば、登校中に生徒が

不審者に出会ったという情報を受けて、素早く現場に出向き、解決に至ったケースもございました。

また、学校にかかってきた不審電話の対応について、経験を活かした指導や助言を校長先生にしたりしております。

しかし、不審者が減るような社会にしていくためには、このような特定の人が頑張るというよりも、同じ地域に住む全ての人が「不審者を許さない」という姿勢をもって、協力して生活してゆくことが何よりも重要なことと思います。

みなさんのご協力をよろしくお願いいたします。

●議長（高杉光咲君） 以上で、山内 実咲議員の一般質問を終わります。

つづきまして、11番^{たかぎ}高木 ^{あおい}碧海議員。

[11番（高木 碧海君） 登壇]

●11番（高木 碧海君）

11番旭小学校6年の高木 碧海です。

私は、教育について質問します。

今年から授業時間が増え、月曜日から金曜日のうち水曜日以外は6時間授業になりました。家に着くと、4時前後で毎日習い事がある私は、とてもいそがしく、学校の友たちも大変だと言っていました。



私の父や母が子供だったころのように、土曜日にも学校があれば平日ばかり授業をつめこむ必要がなくなり、放課後がゆっくりと過ごせます。また、土曜日の午後友達と遊びやすくなると思います。

ゆとりを持った授業時間の割り振りができるといいと思いますが、座間市としての考えはあるのでしょうか。

ご回答をよろしくお願いいたします。

●議長（高杉光咲君） 教育長。

[教育長（金子 槇之輔君） 登壇]

●教育長（金子 槇之輔君）

高木議員さんからゆとりをもった時間割のことについてご質問をいただきました。お答えをいたします。

高木議員さんが土曜日になぜ学校がないのか、土曜日に学校があれば平日に詰め込まなくていいのではないのか、平日にもっと遊ぶ時間もできるのではないのか、こういう疑問

を持たれたということで、ご質問をいただきました。私は、高木議員さんのお気持ちがよくわかります。

土曜日に授業が無くなり、休業日になったことについて、少し説明をさせていただきます。現在のように、土曜日が休業日になるまでには、いろいろな経過がございました。土曜日がお休みのことを学校週5日制と言いますが、これは平成4年9月から月1回の土曜日がお休み、平成7年4月からは月2回お休み、そして、平成14年4月から全ての土曜日をお休みにし、段階的に全国の小中学校で実施されてきました。学校週5日制の目指すものは、学校と家庭と地域社会、それぞれが協力して、豊かな社会体験や自然体験などの様々な活動を通して、自ら学び自ら考える力や豊かな人間性を育てる、いわゆる「生きる力」、皆さんも聞いたことがあると思いますけれども、「生きる力」を身につけることをねらいとして実施されたわけです。

子どもたちの「生きる力」を育むためには、豊かな体験がとても大事です。自然体験が豊富な子ほど、道徳観や正義感が身についているという国の調査でそういうような結果も出ています。

また、お父さん、お母さんの半数近くが「友達と遊ぶことが増えた」親子で一緒に過ごす時間が増えた」など、学校週5日制により子どもや家庭に「変化があった」という結果も出ています。

このように学校週5日制になってから7年が経ちました。そして、今回、新しく学習指導要領というものが変わりました。学習の内容が変わり、小学校では、国語、社会、算数、理科、体育の時間数が少し増え、そして外国語活動が入ってきました。

しかし、授業は増えたんですが、国は、学校週5日制のめざしてきた「生きる力」の育成をこれからも育んでいくこととし、今まで以上に「言語活動」「体験活動」を大切にしていくことが求められ、そのため時間数の増加や外国語活動を取り入れることにしました。

つまり、土曜日が休みになったことや時間数がふえたことは、みなさんがこれからの社会を生きていくために多くの大人たちが、多くの時間をかけ、話し合った結果、そうなったんだと理解してください。

高木議員さんも、今まで以上に、土曜日や日曜日に、友達と遊んだり、地域のお祭りやイベントに参加したりすることで、様々な年齢の違う人たちとふれあい、感じる「学ぶ」「考える」といった「生きる力」「豊かな心」を育んでほしいと考えています。そして、なによりも今まで以上に家族との時間を大切にしていきたい、家族との絆を大事にしていきたい、そういう有意義な時間を過ごしてもらいたいと願っています。よろしく願いいたします。

●議長（高杉光咲君） 以上で高木 碧海議員の一般質問を終わります。

つづきまして、12番^{あまの}天野^{さき} 沙希議員。

[12番（天野 沙希君） 登壇]

●12番（天野 沙希君）

12番相模中学校3年の天野 沙希です。

私は、福祉について質問します。

最近、ニュースで保育園が少なく、入園したいのに、入園できず困っている家庭が多いと耳にしました。

女の人も外で働くようになってきた今、小さな子どもを持つ家庭にとっては、保育園という場所は、今までよりも必要とされています。

私の学校の先生方に話を伺ったところ、多くの先生方が子どもを預けられる時間が限られていて、学校の仕事や部活動などに支障をきたすことがあるという意見が聞かれました。

また、子供が病気の時なども保育園では預かってもらえず、大変だと言う声も聞かれました。

将来的には、子供の数が減ることが予想されていますが、全ての人々が安心して、子育てや仕事ができるまちづくりが必ず、必要になってくると思います。

保育園と学童保育と小児科の病院が併設されているような新しい型の施設などは、座間市では考えられていますか？

また、座間市はどのような形で子育てをする人たちへの支援を行っているのでしょうか？

ご回答よろしく願いいたします。



●議長（高杉光咲君） 保健福祉部長。

[保健福祉部長（田中 治君） 登壇]

●保健福祉部長（田中 治君）

天野議員さんから現在の座間市の保育の現状を大変よく調べられている鋭い着眼点の質問をいただきました。現在、市内には公立9園、私立9園の保育園と児童ホームが13箇所あります。

ここで保育されている児童たちに熱が出たり、怪我をした場合は保育士の先生が様子を見ながら、保護者の方に連絡をして迎えに来ていただき、病院に行ってもらっています。状況によりまして、保育士が病院に連れて行ったりもしている現状です。

そうした中、20年度から1園ですが保育園に看護師さんを配置して、保育中に熱が出て特に問題がなければ、保護者がいつも迎えに来る時間まで預かる体調不良型の保育を始めました。

そして、これからは、保育園に通園中の児童等が病気の回復期、回復期とは病気は治っているのだけれどしばらく自宅で安静にしている状態のことを言いますが、この回復期に集団保育の困難な期間、その児童を保育園等で保育する病後時保育の実施を目指したいと考えます。

また、座間市はどのような形で子育てをする人たちへの支援をおこなっているのかというご質問を頂きました。

座間市には、平成17年から「座間市次世代育成支援行動計画」という座間市の子育て支援の計画書があります。

この計画の趣旨は、次代を担う子どもが健やかに生まれ育つ環境を整備するため、集中的・計画的に推進する取り組みを明らかにするものです。このような趣旨から、全事業で118事業を、いろいろな課で計画を立て、実施に向けて取り組んでおります。

例を申し上げますと、子育て支援課では、平成17年から平成21年度までに4月に児童ホームに入ることができず待っている児童を減らすため児童ホームを10箇所から13箇所に増やすことを計画し19年度までに13箇所にしました。その結果、平成18年4月に入れなかった児童が72人いましたが、19年4月には10人になりました。

また、保健医療課では、思春期の学生に赤ちゃんとふれあう機会を提供し、小さな子への慈しみの気持ちや命の大切さを伝えたいと考え、「赤ちゃんとふれあい体験」事業を行い、今年は、小学校5年生から中学3年生の20人の方に参加をいただいたところです。

今年は、この計画の5年に一度の見直しの時期となっていて、平成22年度から平成26年度までの計画を作りなおします。そのために、昨年は子どものいる家庭6,000世帯に意向調査を行い、意見を聞きました。その結果を基により良い計画を作成したいと考えています。以上でございます。

●議長（高杉光咲君） 以上で、天野 沙希議員の一般質問を終わります。

ここで、15分程休憩いたします。再開は15時20分です。

午後3時5分 休憩

午後3時20分 再開

●議長（山内実咲君）

これからは、高杉議員に代わって西中学校3年山内実咲が進行いたします。引き続き活発な質問、答弁が行われるよう希望します。どうぞよろしくお願いいたします。

休憩前に引き続き、会議を開きます。



つづきまして、13番^{たに}谷^{かずや}和哉議員。

[13番（谷 和哉君） 登壇]

●13番（谷 和哉君）

立野台小学校6年谷 和哉です。

ぼくは福祉について質問します。

ぼくの住んでいるマンションには、障がいを持っている人のための駐車スペースがあります。ぼくは、よくここに普通の乗用車が停まっているのを見かけます。このようなとき、障がいを持った人たちは車を止められず、降りることができません。ここに車を停めている運転手はどのような気持ちなのでしょう。



これに対し、マンションの自治会の人たちが掲示板に張り紙をしたり、看板を置いたりして、努力をしています。それなのに、一向に減る様子はありません。

どうしてこのようなことがおきるのでしょうか。ぼくはとても不思議に思います。ぼくは一人ひとりが気をつければこのようなことはなくなると思います。

座間市民が障がいを持っている人への意識を高めるために、座間市として、どのような取り組みをしているのか、お聞かせください。

●議長（山内実咲君） 副市長。

[副市長（小俣 博君） 登壇]

●副市長（小俣 博君）

谷議員さんから、市民が障がいを持っている人への意識を高めるためにどういう取り組みをしているかというお話でした。

その中で、障がい者の方の駐車スペースに普通の乗用車が停まっていて、自治会の皆さんも一生懸命努力しているのに、なぜそういうことをやめないのか、というお話でございました。さらに、谷議員さんは、やっぱり一人ひとりの心がけと言いましょか、そういうものがなければだめじゃないか、こういうお話でございました。まったく、私もその通りだと思います。一人ひとりの大人の人たちのモラルが欠けているんだろうというふうに思っております。

同じ意見で、同感ですけれども、やっぱりマナーの問題というふうに考えております。障がいを持っている人のための駐車スペースは、その人たちの専門の停める場所になっているわけですから、やはりそういうところにはマークが書いてあるわけです。そこへは、普通の車は停めないようにする、これは常識でございます。障がい者がこういうときに停めたかったんだけど、停める場所がない、どんなに困っているだろうか、私もそのように思います。

大人の一人ひとりが、思いやりの気持ちを持って、停めてはいけない場所に停めないということを心がけるしか、方法がないのではないかと思います。

市としては、なかなかマンションの中まで、立ち入ることが難しいところがあり、したがって、いろんな広報さまざまとか、いろんなところでもっともっとPRしていく必要があるだろうと思います。

障がい者にもっともっと理解をしていただくために、市では、毎年9月を福祉の月間として定めていまして、今年もやりますけれども、福祉大会、福祉まつりなどの催し物を開きながら、障がい者に対して理解を深めていただくということをやっています。それから、12月は、「障害者の日」、これは全国レベルでやっているものですが、あるいは「障害者週間」には、市民の皆さんに障がい者について特に考えていただく期間というふうに定めて、PRをしているところです。

体の不自由な方だけでなく、今、高齢化社会というふうに使われております、もう始まっています、これからどんどん高齢化も進んでいく、したがって、お年寄りに対しても、障がい者と同じように、いろんな面で、これから配慮していかなければならないと思っております。したがって、このような方々に対しては、もっと意識を持っていただいて、特に手を差し伸べていただきたいと思っております。座間市民全てに、こういう思いやりの気持ちを持っていただくことによって、そういう意識を高めて行こうということが求められると思っております。市も、一生懸命、これからも努力していきたいと思っております。ありがとうございました。

●議長（山内実咲君） 以上で、谷 和哉議員の一般質問を終わります。

つづきまして、14番^{たかすぎ}高杉^{みさき}光咲議員。

[14番（高杉 光咲君） 登壇]

●14番(高杉 光咲君)

14番東中学校3年の高杉です。

私は、福祉について質問します。

私たち東中学校には、国際福祉部という部があり、私たちが学校で毎日飲んでいる牛乳パックを集めています。そして、その牛乳パックを換金して、ダルニー奨学金として支援活動を行っています。



また、去年は国際福祉部がその活動を認められ、座間市青少年善行ほう賞をいただきました。私自身とても嬉しく感じ、また、私と同年代の子供が学校に行って、勉強できることは、さらに嬉しいことです。

そして、市全体の学校で、このような支援活動を行うと、「学校に行きたい」と願っている子供たちで、学校に行けるような人が増えると思うのです。

東中学校では、飲み終わった牛乳パックは個人で水洗いをし、たたんで団体へ送るといのは国際福祉部が行っています。

確かに、国際福祉部がない学校もあるとは思いますが、私はこのような支援活動はどんどん広がっていくと良いと考えています。

それは可能でしょうか。また、どのようなご協力やアドバイスをしていただけるか教えてください。

●議長(山内実咲君) 教育長。

[教育長(金子 槇之輔君) 登壇]

●教育長(金子 槇之輔君)

高杉議員さんから生徒会活動として行っている支援活動を波及していきたい、その可能性についてということでご質問をいただきましたのでご答弁を申し上げます。

まず、東中学校で取り組んでおられるダルニー奨学金の支援活動は、たいへん素晴らしいと思います。牛乳パックのリサイクルという点で環境問題に、また経済的に恵まれない東南アジアの同世代の子ども達を支援するという点で国際的にも貢献する素晴らしい活動だと思います。議員さんがおっしゃるとおり、去年は、東中の国際福祉部が、その活動を大いにほめたたえるということで、座間市の青少年善行ほう賞を受賞されたということで、たいへん素晴らしい取り組みであったと思います。

この活動は、恵まれない人たちに何か支援をしたいという気持ちから、生徒が話し合っ始めて始めたと聞いております。自分たちのできることを力を合わせて自主的に取り組んでいるという点で大変価値のあることだと思います。

高杉議員は、もっと大きな規模で支援活動を進めていきたいというお考えは大変すば

らしい視点であると思いますし、是非多くの学校が連携しあっていただきたいものだと思います。

市内では、南中学校も国際福祉部の活動として、また栗原中学校でも古切手や書き損じハガキを回収して、ダルニーに参加し、支援を行う活動をしていると聞いております。そこで、まずはその3校から、また、市内6校の生徒会の役員さんが話し合う機会が、たぶん、夏休みにあるんだろうと、毎年行っていると思いますけれども、そういう場で、ぜひ、それぞれの取り組んでいることを話し合っ、報告し、発表しあうというふうにさせていただくと良いのかなと思います。それを参考にしながら、お互いの活動の輪を広げていってほしいと思います。

教育委員会も、学校訪問で市内の小中17校に訪問をしております。この東中学校のすばらしい、意義ある活動については、ぜひ、それぞれ学校を訪問した際に、紹介したいと思っております。

よろしく申し上げます。ありがとうございます。

●議長(山内実咲君) 以上で、高杉 光咲議員の一般質問を終わります。

つづきまして、15番石川^{いしかわ} 悠弥^{ゆうや}議員。

[15番(石川 悠弥君) 登壇]

●15番(石川 悠弥君)

15番相模野小学校6年石川 悠弥です。

ぼくは、福祉について質問します。

ぼくの妹はまだ小さくて、ベビーカーに乗ることがあります。この座間市の大通り以外の細い道はあまり舗装されていない所をよく見ます。散歩に行くときなど、このような道を通るとベビーカーから伝わる不快な振動は押している方も

気分が悪く、乗っている方も押す人以上に気分が悪いと思います。これは、ベビーカーを例題にしていますが、車いすに乗っている人や押している人もそう感じたことがあると思います。

ぼくの家近くに市民球場があり、昔その脇道は、アスファルトがはがれ、大きな水たまりができるほどの穴があり、でこぼこしていて転倒してしまうお年寄りなどがいたと思います。でも、最近、道が舗装されてすごくきれいになり、これからは今まで以上に快適だなと思いました。他にもまだ舗装しなければならない道は市内でも多数あると思います。こういった道路を減らせば、車いすの方などの苦勞が少しは減るのではないかと思います。



また、市内の小さい抜け道などは、車道の幅が狭く、車同士のすれ違いや歩道の白線が引いてなく、しかもカーブミラーやガードレールが不足していて危険です。歩道が無いところは、特に、雨の日、かさをさしながら通行するのは難しいでしょう。

たとえば、相武台前駅の交番の反対にある踏切の場所では、車道と歩道が狭いので、車、自転車、歩行等の通行のとき、多くの事故が考えられます。雨天の時には、さらに危ないと思います。僕は、今発言したことで、少しでも座間市に改善してもらえれば、市民の苦勞がとても減ると思いますので、是非座間市のお考えをお聞かせ願いたいと思います。

これで、福祉について考えた質問を終わります。回答をよろしく申し上げます。

●議長（山内実咲君） 都市部長。

[都市部長（和田 永一郎君） 登壇]

●都市部長（和田永一郎君）

石川議員より昨年夏に工事しました市民球場近くの道路舗装について、最近、道が舗装されてすごくきれいになり、これからは今まで以上に快適だなと思いましたという、たいへんうれしいお言葉をいただきました。とても励みになる言葉です。ありがとうございます。

石川議員がおっしゃるように市内には舗装をやり替えなければいけない道路、また砂利道を舗装しなければいけない道路がまだまだたくさんあります。このような道路をすべてきれいに出来ればよいのですが、現在、市で管理している道路は、総延長にしますと、356kmあります。これを鉄道の延長に直しますと、東海道新幹線で東京駅から名古屋駅までとおおよそ同じ距離となります。

現在も傷んだ舗装のやり直しや砂利道の舗装を行っていますが、一年間で3、4Kmしかできないのが現状です。

今後も市民の皆さまの要望や道路の状況などを良く見て、悪い部分を優先してやり直しの工事を行なって、少しでも傷んだ道路が減るよう頑張ります。

また、相武台前駅の交番の反対側部分の改善のお話をいただきましたが、この部分は現在、相武台前駅南口から東側、ですから相模野小学校の方へ向けて、6～7m幅の道路を車道と歩道を合わせて11mに広げて、安心して通行できるような道路工事を行なっている最中でございます。

しかし、改善のお話があった場所は、もっと踏み切りよりの場所だと思いますけれども、現在、工事を行っている場所からはずれた部分となりまして、将来は工事を予定しているところです。従いまして、なにか安全対策が可能であれば対策をしたいと考えております。

相武台に限らず、市内には道幅の狭い道路がたくさんあります。今後もできる改善を一生懸命行って、少しでも道路が良くなるように頑張ります。

●議長（山内実咲君） 以上で、石川 悠弥議員の一般質問を終わります。

つづきまして、16番^{たなか}田中^{ゆうか} 柚香議員。

[16番（田中 柚香君） 登壇]

●16番（田中 柚香君）

16番相模が丘小学校6年田中柚香です。

私は、相模が丘の道について質問します。相模が丘の道はとても狭く、歩行者と自転車が一緒になってしまい、自転車や車との事故につながってしまいます。また、白線がせまく、車との距離が近くなってしまい、とても危険です。



さらに、進入禁止の時間にもかかわらず、登下校中のスクールゾーンに車が曲がってきたり、スピードを出して走ってきたりなど、すごく危険に感じます。その他にも、せまい道に車が止めてあり、すごく迷惑です。

私たちは、白線の幅を広げてもらい、歩行者と自転車が一緒になっても、安全に通れる道があるといいなと思います。また、進入禁止のときに車が曲がってこないように、みんなの目に留まるような標識を作ってもらいたいです。

相模が丘には、お年寄りが多く住んでいます。ですから、お年寄りが安全に安心して通れる道があると、事故が少なくなると思います。以前、交通指導委員さんから、相模が丘は市内で最も多く交通事故が起きていると聞きました。ですから、道幅が広くなると車との距離が遠くなり、少しでも事故が減らせると思います。さらに、進入禁止の時間が書かれている目立つ標識があれば、曲がってきたり、スピードを出してきたりする車が少なくなると思います。そうすると、登下校中でも車が走ってきて、今まで危険だと感じていた人たちも、安心して通ることができると思います。ですから、小さい子どもからお年寄りまで、安全に安心して通れる道を作ってもらいたいです。

相模が丘の道について質問しました。ご回答をよろしく願いいたします。

●議長（山内実咲君） 市民部長。

[市民部長（清田 栄君） 登壇]

●市民部長（清田 栄君）

田中議員のご質問にお答えしたいと思います。

まず始めに、みんなの目に留まるような標識を作ってもらいたいということですが、

相模が丘地区につきましては、道路が狭く、車の通行も多く子供やお年寄りにとっては大変だと思います。

目立つ標識ですが、住宅街の狭い道路では見やすい標識が通行人の邪魔となることがありますので、標識を設置するには、通行人の安全を確認したうえで対応をしております。

また、進入禁止のところにスピードを出して入ってくる車があるということは、地域の人たちにも迷惑をかけていて、交通事故につながることもありますので、ドライバーはルールを守ることが大切だと思います。

地域の子供やお年寄りが交通ルールを守っている中で、車を運転する大人の一部の人がルールを守らないのは、大人として大変恥ずかしいことでもあります。反省すべき問題でありますから、市と警察がお互いに連絡をとって、悪質なドライバーがいなくなるように取り組んでまいります。

次に、子供からお年寄りまで、安全に安心して通れる道を作ってもらいたいということですが、歩行者と自転車と一緒に、安全に通れる道は、最近の車優先から歩行者優先への考え方と一緒にあると思いますし、田中議員のように真剣に考えていただいていることは、道路を作り、管理する市としてもしっかりと考えて行かなければいけないと思っております。

道路を広くすることは非常によいことであると思いますが、しかし、広い道路を作ることは、既に、そこに住んでいる皆さんに理解をしていただき、道路としての土地を提供していただかなければなりません。そうなりますと、住み慣れたところから別のところに移って、新しい所に家を作り生活をしなければならぬという大変難しい問題もあります。

田中議員もご覧になったと思いますが、市では昨年度に相模が丘小学校の通学路に白い線と車道と反対側に緑の色を塗りました。ただし、緑色の部分は、道路の幅から考えて歩行者が通行出来る範囲を考えて色を塗りました。

しかし、車も皆さんの生活に必要なものを運んだり、車でなら外出が出来る人、通院などでどうしても車が必要という人もいます。

それぞれの人がそれぞれの立場を理解しながら良い方法を考えてまいりたいと思います。

●議長（山内実咲君） 以上で、田中 柚香議員の一般質問を終わります。

つづきまして、17番^{かねまる}金丸 ^{せりか}青里香議員。

●17番(金丸 青里香君)

17番東原小学校6年2組の金丸 青里香です。

私は、ユニバーサルデザイン、バリアフリーについて質問します。

先日、車いす生活を送っている方をお迎えして、話を聞かせていただきました。その中で、興味を持ったことは、「まちには不便なところ、少し使いづらいところがある」という点でした。で



こぼこな道や道路にある網目状のふたであるグレーチングが粗い場所、段差が約3センチメートル以上ある場所は大回りしないといけないので不便です。他にも、障がい者用トイレでさえ使いづらいものがあるとのことでした。

そこで、私はまず、学校内がどうなっているのか調べてみました。昭和48年に完成した本館は、水飲み場の入口や教壇、渡り廊下や昇降口に3センチメートル以上の段差がありました。昭和55年に完成した新館は3センチメートル以上の段差はほとんどありませんでした。

次に、目の不自由な人の立場になって町の中を歩いてみました。傘をつえがわりにし、目をつぶり、友達に付き添ってもらいました。すると、グレーチングに傘が入ってしまい転びそうになったり、車道と歩道の区別がつかなくなったりしました。普段だったら分からない、不便さに気づきました。

このことから、どうしたらみんなが不便なく生活できるかを考えてみました。

学校については、細かい段差をなくし、車いすの人も急に怪我した人も楽に上がるようにエレベーターをつけてほしいと思います。また、どんな人でも使えるトイレをたくさん設置してほしいと思います。

まちについては、道のでこぼこは、私たちが歩きにくいので直してほしいと思いました。段差はスロープにして、歩道橋はもっと緩やかな傾斜にするか、エレベーターをつけてはどうかと思いました。

他にも、障がいのある方の意見を取り入れる機会を増やし、パソコンやデジタル放送を活用してどのような立場の人でも簡単に市の取り組みの情報を得ることができればいいと思います。

そこで、お聞きしたいことは、座間市及び学校のユニバーサルデザイン、バリアフリーについて、これまでの取り組みはどのようになされてきたのでしょうか。また、今後どのようにしていこうと計画されているのでしょうか。

回答をお願いします。

●議長（山内実咲君） 教育部長。

[教育部長（中村 咲男君） 登壇]

●教育部長（中村 咲男君）

金丸議員さんからユニバーサルデザイン、バリアフリーへの取り組みというご質問をいただきました。

まず、ご承知の通り、バリアフリーとは高齢者や障がいをお持ちの方などに、そうした方々が社会生活をしていく上でバリアというものを無くしていこうという考え方です。ユニバーサルデザインとは、年齢や障がいの有無にかかわらず、全ての方々に対して利用しやすいデザインにするという考え方です。

金丸議員さん、自ら、車椅子を使用している方からお話を聞いたり、まちの中の状況を、障がいをお持ちの方の身になって、体験して調べ、問題を持ったということは素晴らしいことと思います。

市の管理する道路、公園、建物においては、平成 12 年度に施行された交通バリアフリー法という法律により、主にバリアフリー対策として凸凹な道を平らにしたり、建物などの段差を少なくするための工事を行っています。

さらに、学校の施設の面でのご質問もありましたが、以前に建てられた学校については、確かにユニバーサルデザインやバリアフリーという考え方は、あまり意識をしないで建設をしたような状況もありました。

しかしながら、現在では、すべての人が社会生活を共にすることが、当たり前のことであり、私どもといたしましてもこの考えに基づき、順次、必要な箇所の段差の解消や障がい者用トイレの設置等を行っております。

最後に、学校施設へのエレベーター設置の件については、学校の構造上の問題もあって、現状では実現は難しいところです。クラスの中には、怪我などで一人では自由に歩き回れない友達も出てくるかもしれません。その時には、みんなで協力して助け合うことも、大切なことと思います。

●議長（山内実咲君） 以上で、金丸 青里香議員の一般質問を終わります。

つづきまして、18番^{そのだ}園田^{あおい}碧議員。

[18番（園田 碧君） 登壇]

●18番（園田 碧君）

18番ひばりが丘小学校6年園田碧です。

さがみ野駅のエレベーターは、外が見えるようになっていて、景色が見えます。見晴らしが良いのも特徴ですが、私が特に良いなと思ったのは、ドアです。さがみ野駅のエ

エレベーターには、はじめに2つ入口・出口共用のドアがついています。その上に、電光掲示板のような物があり、そのどちらかに開くドアには「こちらがわのドアが開きます」という言葉が流れ、音が聞こえます。こんな小さなことでも、みんなの役に立つことはたくさんあるんだなと思いました。



でも、市内には入谷駅のように、無人の駅もあると聞いています。そういう駅では、段差があるところなど、どうしているのか、市としてバリアフリーにする予定はあるのか、お聞きしたいと思います。

また、ひばりが丘のいまの歩道は、私たち通行人にはちょっとせまいと感じます。車道がせまいのも困るけれど、歩く人にとっては、もう少し広くしてもらえると行動しやすく、動きがスムーズになると思います。その点はもっと考えてもらえたらいいなと思います。市として、歩道を広くする計画はありますか。

●議長(山内実咲君) 企画財政部長。

[企画財政部長(宮代孝男君) 登壇]

●企画財政部長(宮代 孝男君)

それでは、園田議員から、無人駅の段差、バリアフリーについて、さがみ野駅のエレベーターを参考にしながら、ご質問をいただきましたので、それに対してご答弁を差し上げたいと思います。

駅のエレベーターの設置状況を見ますと、市内を見ますと、現在、座間市内には、小田急線相武台前駅、座間駅、この2つの駅に設置がされています。さらに、最寄りの駅で見ますと、さがみ野駅、それから、小田急相模原駅にそれぞれ1台ずつ、ということで、全体市内及び最寄りの駅を含めると、4つに設置されています。

ところが、残念ながら、ご質問にありましたとおり、JR 相模線の入谷駅には、設置されておりません。入谷駅にご利用されている方には、電車に乗るたびに、ドアとホームの間に段差があり、身体の不自由な方やお年寄りの方については、たいへん不便さを感じているところも、事実、ございます。

それから、駅舎などについてもございません。そのため、整備が進まず、駅員も、残念ながらいないという状況があります。

このため市では、特に、相模線の入谷駅については、毎年、JR東日本株式会社という、所有者となっているこちらの方に、要望をしております。

座間市が、直接、この入谷駅を勝手に工事で改修することができないという非常に難しさがあります。

そういったことを踏まえまして、今、言いましたとおり、特に入谷駅を含めましたJR相

模線については、周りの市町村で協力をしながら、JR東日本に段差の解消や駅員の配置について、要望をしております。

したがって、これからも、要望のありましたバリアフリー対策につきましても、JR相模線全体整備の中で、引き続いて要望をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それから、ひばりが丘の歩道について広くしたらどうかというご質問でございます。

現在の歩道は、まだ交通量の少なかったところに作られたものが多く、残念ながら、今の利用状況を見ますと、非常に狭く、通行がしにくいという状況があるかと思ひます。

しかし、これを広げようとしますと、車道と反対側に歩道をつくるということになりますと、土地を所有している方に売ってもらうことが必要になり、場合によっては、住んでいる方に他の場所へ移ってもらうということも出てきます。

さらには、それらの土地を購入するためには、多額の費用が必要となってきます。

そういうことで、市では、まず、歩道の無い所から、整備を進めるということで、市では進めています。それとあせて、土地を所有している人、住んでいる人の協力が得られる場合には、歩道を広くできるように、これからも、引き続き、積極的に取り組んでまいります。

以上で、園田議員に対する答弁といたします。

●議長（山内実咲君） 以上で、園田 碧議員の一般質問を終わります。

つづきまして、19番^{おがわ}小川^{りな} 莉奈議員。

[19番（小川 莉奈君） 登壇]

●19番（小川 莉奈君）

19番座間中学校2年の小川 莉奈です。

私は、福祉について質問します。

私は小学生のころ、職業体験で市内にあるベルホームという老人ホームに行ったことがあります。

老人ホームには、車いすに乗ったおじいちゃん、おばあちゃんがたくさんいました。

そこで働く人に聞いたのですが、老人ホームでは年に数回お年寄りの方々に、車に乗って外食に行くそうです。ですが、その外食に行く店が段差が多かったり、車いすでは危険という所だと、その店をやめて違う店に変えるのだそうです。

確かに、市外もそうですが、ファミリーレストランなどには意外と階段や大きな段差がある店が多いと思ひます。その段差だけで、食事場所を制限されてしまうのは、おじいちゃん、おばあちゃんがかわいそうです。



また、お店以外でも市内には段差や砂利のある道が多く存在します。
これでは、とてもお年寄りにとっては住みやすいまちになっているとは思えません。
なので、これから座間市が改善していこうとしている道路整備や民間の店舗、施設へのバリアフリーを進めるための指導について教えてください。

●議長（山内実咲君） 保健福祉部長。

[保健福祉部長（田中 治君） 登壇]

●保健福祉部長（田中 治君）

小川議員さんから福祉、バリアフリーの推進についてのご質問をいただきました。

本市では、平成17年10月にお年寄りや障がい者等が安心して外出できるよう、座間市交通バリアフリー法基本構想」をつくり、小田急線相武台前駅施設とその周辺道路のバリアフリー化を行っております。

また、新しく建設する公共施設につきましては、障がい者専用駐車スペースを作り、出入口などの段差をなくしたり、エレベーターや障がい者が利用しやすいトイレを作り、目の不自由な方が移動しやすいよう誘導ブロックを敷く等施設のバリアフリー化に努めております。

新しく公園を作る場合でも、障がい者用トイレや障がい者専用駐車スペースを作り、お年寄りや障がい者等が利用しやすい施設づくりに心掛けております。

一方、市では平成21年3月に「座間市障害者計画」を改めまして、障害者基本法に基づく障害者計画及び障害者自立支援法に基づく2期目の障害福祉計画を同時に改訂しました。この計画の基本目標のひとつである「安心して暮らせるまちをつくる」を実現するために、「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」、通称バリアフリー新法と言っていますが、の推進を図っていくこととなります。

なお、障害者自立支援法に基づく、座間市地域自立支援協議会の専門部会である身体障害部会では、身体障がいを持っておられる方が委員として活動しております。障がい者の目線からも座間駅、相武台前駅構内、市民体育館や民間の大型店舗など12箇所のバリアフリー化を調査したうえで、お年寄りや、障がい者等の外出に役立てていただくことを目的として、平成22年3月を目途にバリアフリーマップの作成を予定しております。

最後に、現在、市が、バリアフリー化を進めています相武台前駅から相武台コミュニティセンターまでの市道5号線、市道32号線についてご説明をいたします。

この道路は相武台前駅南口から東側へ布団屋さんの交差点までを6～7m幅の道路を1.1mに広げ、両側に歩道を設置し、バリアフリー化する工事です。

残りの布団屋さんから相武台コミュニティセンターまでは、道路片側部分にグリーン

に塗った歩行部分を作りました。このような状況でございます。

●議長（山内実咲君） 以上で、小川 莉奈議員の一般質問を終わります。

つづきまして、20番人見^{ひとみ} 健^{たける}議員。

[20番（人見 健君） 登壇]

●20番（人見 健君）

20番相武台東小学校人見 健です。

ぼくは防災について質問します。

ぼくは、以前防災センターに行って、地震のゆれを体験をしました。震度が高くなっていくにつれて、どんどんゆれが大きくなっていき、立ってられなくなって、とても怖かったです。

また、ニュースで新潟県中越沖地震の被害に遭われた方々がいまだに仮設住宅で苦しい生活をしていることを知りました。もし、人口の多い神奈川県で同じような大きい地震が起こったときに、どれほどの被害が出るか心配です。

近年、関東地方で大きな地震が起こるかもしれないという話が出ているが、座間市では何か対策はとっているのでしょうか？

また、実際に地震が起こった場合、食料や住居の確保など、具体的にどのように対応をしているのでしょうか？



●議長（山内実咲君） 上下水道部長。

[上下水道部長（佐藤 修一君） 登壇]

●上下水道部長（佐藤修一君）

人見議員から防災についてご質問をいただきました。後ほど消防長からもお答えいたしますが、先に上下水道の地震対策についてお答えいたします。

このところ各地で地震が起きています。8月11日の早朝に駿河湾で地震が発生したときには、座間市内でも震度3を観測しました。議員も驚かれたと思いますが、防災は先ず自分で身を守ることが大切です。そして地域で出来る対策に取り組んで頂くことも必要です。市では、大地震による被害が可能な限り軽くなるように、橋や建物などの補強を行っており、新しく作る施設は地震に強い構造にして災害に強いまちづくりを進めています。

また、水道、電気、通信などのライフラインは、災害時の救助や消火活動など、応急対策の活動を行なうのに重要です。それぞれが防災体制の整備を進めています。

そして、災害被災者に一番必要とされる水についてですが、市内に水道管は約299

km あります。地震によって水道管の弱い部分が壊れて水が出なくなることが想定されます。このため水道施設の耐震化を進めているところです。

皆さんのお家まで水を配るために一時水を貯めておく配水場が市内に 3 箇所あります。そこに在る配水池は既に耐震補強を行ないました。また、水道管を地震に強い管に取替える工事も進めています。耐震化のための事業にはとても多くの費用がかかるので、重要な路線から耐震化を進めることにしています。

さらに、地震により被害が発生した場合の避難所となる小中学校のグラウンドの地下など、市内 17 箇所ありますが、その 1 箇所あたり 40～60 m³の容量の非常用飲料水貯水槽を設置してあります。全体で 900 m³を貯水することが出来ます。防災計画では災害時には 1 人 1 日当り 3 リットルの 3 日分を目標として応急飲料水を確保することにしていきますので、単純計算しますと 10 万人分になります。

さらに被災者への応急給水や水道管の応急復旧の対応方法も計画をたてており、早く復旧するために、他市の水道と災害相互応援についての取決めもしています。

それぞれの家に飲料水を蓄えておくことも必要なことです。

さらに、水道を使った後の排水処理やトイレの問題も重要です。

下水道施設が壊れた場合に、避難所のトイレの応急対策として、下水道マンホールを利用して仮設トイレを設置できる箇所を増やしていきたいと考えています。

下水道管は一部を除いて自然流下方式ですから、管が壊れたりマンホールが傷んだりした場合は、テレビカメラ調査を行いながら補修していかなければなりません。地震災害に対しては、被害規模を小さくする減災の考え方で対応しております。

私からは以上でございます。

●議長（山内実咲君） 消防長。

[消防長（林 正純君） 登壇]

●消防長（林 正純君）

人見議員さんから防災活動について、ご質問をいただきました。ただいま、上下水道部長がお答えした以外の部分についてお答えいたします。

大地震のときの行動としては、先ず自分の身の安全を守ることが、一番重要なことです。その後、安全な場所に避難することです。その時に必要なのが非常持出品です。先ほどの話のとおり、3 日分の水が必要ですので、3 日分の水の保存、保存できる食料、たとえば、缶詰、インスタント食品など、それから、救急医薬品、懐中電灯、トランジスターラジオ、乾電池などを袋などに入れて用意しておけば、いざと言う時に慌てることはありません。

市の対応につきましては、飲料水については、先程、上下水道部長からお答えがありましたとおり確保されています。また、食べ物ですが、お湯をいれるだけで食べられる、ご飯を

85, 000食ほど用意してあるほかに、毛布や簡易トイレなども用意しています。

そして、秋田県、東北ですが、大仙市というまちと食べ物、飲み物、生活に必要な物などをお互いに協力し合うために約束を結んでいます。

また、住む家が、地震で壊れたり、火事になったりして住めなくなった市民の方に対して、仮設住宅を建てて、住んでいただくことになります。

それから毎年、多くの市民の方に参加していただいています市の総合防災訓練を行っています。今年は8月29日（土）の午前10時から座間小学校の校庭で行いますので、ぜひ、人見議員を始め、ここにいられる議員の皆さまにも見ていただきたいと思います。

次に消防関係についてお話しします。

消防は大きく分けて、消防本部・消防署と消防団という組織があります。現在の消防職員は148名で、消防団員は219名です。

消防団は自分の仕事を持ちながら、火事の時に出動します。座間市内を5分団、16部にわけ活動しています。議員さんやお友達のお父さんの中には、消防団員の方もいるかもしれません。

そして、大きな地震などが発生した場合の消防の役割としては、倒れた家などから人を救出したり、けがをした人の応急手当をして病院へ運んだりすること、それから火事が起きたら火事を消すこと、それから市民を避難場所へ誘導するなど、消防職員と消防団員が協力し対応していきます。そのために、昼も夜も訓練に訓練を重ねています。

また、大きな地震は、神奈川県消防隊だけでは対応が出来ないようなときは、全国から緊急消防援助隊が応援に駆けつけることになっています。

現在、全国で約4,000隊の部隊に47,000人の消防職員が登録されています。

平成16年に発生した新潟県中越地震には、座間市の消防隊が緊急消防援助隊として現地に出動しました。

このように、災害の対応については、市民の皆さんが安心して住める、住みよいまちにと、座間市は一生懸命取り組んでいます。

災害が起きたときには、みんなが助け合い、お互いが協力し合うことが一番大切なことと思います。是非、そのことについて学校や、家庭でお話し合いをしてみたいでしょうか。どうぞよろしくお願いいたします。

●議長（山内実咲君） 以上で、人見 健議員の一般質問を終わります。

つづきまして、21番石田 ^{いしだ} ^{まいな} 舞奈議員。

[21番（石田 舞奈君） 登壇]

●21番（石田 舞奈君）

21番座間中学校3年の石田 舞奈です。

私は教育について質問します。最近、新聞で「ゆとり教育による学力低下」についての記事を読み、私たちの教育について関心を持ちました。

ゆとり教育には心のゆとりを持つことができる、自分自身で物事を考える力が育つなどの利点があると考えられていますが、私は、それが必ずしも良い結果だけを残すとは思えません。

たしかに心の余裕も必要ですが、しかし、知識が多い方が、将来、道が広がるのではないのでしょうか。それに、これは勉強だけに限りませんが、物事に一生懸命打ち込むことはとても大切なことだと思います。



そこで、私は子供が勉強に興味を持てるような特別教育などのイベントを活発に行うと良いのではないかと考えました。

そういう機会を夏休みなどに積極的に設けていけば、少しでも関心を持つことができると思います。これについて、座間市としての考えをお聞かせください。

●議長（山内実咲君） 教育長。

[教育長（金子 慎之輔君） 登壇]

●教育長（金子 慎之輔君）

石田議員さんから夏休みの期間に子どもが興味を持てるようなイベントを積極的に設けたらどうかのご質問をいただきました。

まず始めに、石田議員さんがゆとり教育について自分の考えをしっかりと持っていることに対して、敬意を表したいと思います。石田議員さんがおっしゃるように、豊かな知識や技能を持つということは大切なことです。そして、じっくり考えたり、様々な経験や体験をすることも大切なことです。また、何かに打ち込めるということも大切なことであると思います。

ご質問の件ですが、私は、夏休みには、次のような意義があると考えます。

一つは、家族で触れ合ったり、地域の行事などに参加したりすることで、より多くの人たちと出会うこと。二つ目は、家庭の中で、家族の一員として、進んでお手伝いをしたり、忙しくてなかなか家の人たちができない、家の周りや中のことを積極的に引き受けたりすることで進んで役割を持って過ごすこと。三つ目は、自分の計画をしっかりと立てて、規則正しい生活や学習すること。長期間に渡る夏休みは、自ら積極的に考え、計画をたて、行動する絶好の機会だと考えます。

ご指摘の興味を持てるようなイベント等の事業については、教育委員会では、夏休みの期間だけでなく、年間をとおして、児童生徒を対象にしたさまざまな行事を開催しております。

たとえば、市内に3館あります公民館では、年間を通して自然科学を楽しく学ぶ「ふれあい自然科学クラブ」、実験を通して科学の面白さを体験する「科学教室」、天体観測などの理科系の事業や、谷戸山公園を利用したの米作り体験をしたり動植物を観察する自然観察会など生態系を学ぶもの、それから、プチロボットを作って競走するプチロボ競走大会、中学生ロボコン、ミニサイエンスカーニバルなどのイベント、夏休み工作教室や「お菓子作り教室」、「中高生の自立の料理」や「小中学生の手話教室」などさまざまな行事に取り組んでいます。

そのほか、青少年センターでも小中学生向けの行事が年間をとおして、いろいろと実施されています。

こういった事業にも積極的に参加していただいて、自分自身の新たな才能の発見や、それぞれの将来の進路選択につながるような出会いがあったら良いなど、私は期待しているところがございます。この夏休みを有効に活用して、自ら行動し、自分を磨いていただければ教育委員会としてもこんなに嬉しいことはありません。よろしく願いをいたします。

●議長（山内実咲君） 以上で、石田 舞奈議員の一般質問を終わります。

つづきまして、22番井上^{いのうえ} 南風美^{なふみ}議員。

[22番（井上 南風美君） 登壇]

●22番（井上 南風美君）

22番栗原中学校3年の井上 南風美です。

私は、市の安心安全について質問をします。

私は塾が終わると、友達と自転車で家に帰るのですが、その都度気になることがあります。それは、駅周辺や大通りは街灯が多く、夜でも明るいのですが、家に近づくにつれ、街灯が少なくなるように感じるのです。木やしげみで、夜間はあたりが暗闇になりがちなのに、住宅街や細い道に街灯が少ないということは犯罪を招く危険性もあると思います。最近、環境を考えた電気消費量の少ないオレンジ色の街灯や太陽電池で発電する街灯もあるようです。

市の防犯や安全のために、そのような街灯を必要な場所へ設置することはできないのでしょうか。

これで質問を終わります。回答をお願いします。

●議長（山内実咲君） 市民部長。



●市民部長（清田 栄君）

井上議員から「防犯や安全のために街灯を必要な場所に設置することについて」ご質問をいただきましたので、お答えいたします。

確かに、駅周辺や大通りの街灯は明るさがあるかと思えます。

裏道に入りますと蛍光灯の防犯灯であり、駅周辺の街灯とは違いがありますので、暗さを感じてしまうものと存じます。

街頭の照明といたしましては、道路照明灯、街路灯、防犯灯、公園灯などがあります。

道路照明灯は、交通安全のために主に車道を照らすものでありまして、市では、平成21年3月末現在で479基を設置し、維持管理をしております。

街路灯は、主に商店街の活性化を目的に各商店会が設置、維持管理をしております。

この街路灯につきましては、市では、設置費や維持に伴う修繕費、更に、電気料金の一部を助成しており、平成21年3月末現在で23の商店会があります、その23の商店会が680灯の街路灯、防犯灯の機能を果たしています街路灯を設置しています。

そのほかに、防犯灯は、市が設置し維持管理を行っておりまして、毎年約100灯の防犯灯を新設してきております。平成21年3月末では7,044灯の防犯灯を管理しておりまして、3年前、平成17年度と比べますと264灯増えております。この防犯灯は、地域の住民の方が夜間に通行するには暗く危険な場所について、担当の調査や地域からの申し出により、調査をして、新設しております。

また、球切れがあった場合は、地域住民の方から、ご連絡をいただきまして、至急、球の取替えを行っております。

先程申し上げましたように、市としても、それぞれの役割をもった照明を市民の安心安全のために設置し、維持管理をしております。

照明によって犯罪に対する不安感が軽減され、安心感が高まるとことはよく知らされておりますので、今後も引き続き環境に配慮しながら防犯灯の設置に努めてまいります。よろしく願いいたします。

●議長（山内実咲君） 以上で、井上 南風美議員の一般質問を終わります。

つづきまして、23番飯島 ^{いいじま} ^{あきひろ} 章裕議員。

[23番（飯島 章裕君） 登壇]

●23番(飯島 章裕君)

23番入谷小学校6年生の飯島です。

今日は、キャンプ座間のことについて、質問をさせていただきます。

僕たち小学生は、毎年1回社会見学があり、これまでも色々な施設を見学してきました。しかし、僕たちが住んでいる目と鼻の先にあるキャンプ座間は、一度も社会見学に訪れたことはありません。たまに、花火大会や盆踊りなどのイベントで入ることはあっても、それがどんな役割を果たしているのか知っている小学生はほとんどいません。そもそもなぜ僕たちの町に、キャンプ座間があるのでしょうか。また、キャンプ座間はこれまでどんな役割を果たし、今後どんな役割を果たしていくのでしょうか。市長からご説明いただければと思います。



また、キャンプ座間の中には陸上自衛隊があると聞いています。この座間のまちで阪神大震災のような大災害がおこらないという保証はありません。小学校でも避難訓練はしますが、本格的な災害対策の知識はありません。せっかく、すぐ近くに自衛隊の方たちがいらっしゃるのであれば、災害対策の理解を深めるためにも、自衛隊の災害救助活動について社会見学で勉強する機会があってもいいのではないのでしょうかと思いますが、市長のお考えはいかがでしょうか。

もう1点、ぼくは以前、座間市の国際交流協会の相撲部屋1日体験に参加して、キャンプ座間のアメリカの子供たちと相撲をとったことがあります、とてもいい思い出になっています。でも、残念ながらこれに参加できた小学生はほんの一握りでした。そこで、キャンプ座間のアメリカの小学生たちと学校行事の中で、交流することができないのでしょうか。基地があるというのは、負担かもしれませんが、これを国際交流に活かせば、マイナスもプラスになるのではないかと思います、市長のお考えはいかがでしょうか。

ご回答をお願いします。

●議長(山内実咲君) 市長。

[市長(遠藤 三紀夫君) 登壇]

●市長(遠藤 三紀夫君)

本日、最後の質問ということで、飯島議員よりキャンプ座間の件についてご質問をいただいたわけでございます。

たいへん、座間市にとって、大切な課題であると思いますので、私の答えられる範囲で答えさせていただきたいと思います。

まず、キャンプ座間という言葉ですけれども、私の経験で子どもの頃に他の地方に遊びに行ったときに、その友達とキャンプ座間という話をしたらば、「座間にはキャンプ場があるの?」と言われたことがあります。キャンプ座間という言葉、皆さんはこの座間市に住んでいらっしゃるって、フェンスに囲まれた基地があるということをご存知だと思わすけれども、基地があるまちというのは、日本国内でもほんの一握り、まず、それが大きな前提として理解をしてもらいたいと思います。それも、なんとか基地というのではなく、キャンプ座間という言葉、これはキャンプなになにという言葉が付くのは、アメリカの陸軍の基地、これがキャンプなになにという名前になっている基地です。

そもそも、なぜ、座間市に、キャンプ座間があるのかというお尋ねをいただいたわけですが、これは、ちょっと古い話で、ちょっと難しいかもしれませんが、今から約72年前の昭和12年に、当時の日本の陸軍士官学校という学校がありまして、それが東京の市ヶ谷から郊外に移ってくる、そこで、現在のキャンプ座間がある、この座間市と相模原にまたがる地域が選ばれて、学校が移ってきて、建てられたことにこの起源があります。

昭和20年に第二次世界大戦が終わりますと、日本が戦争に負けたことによって、アメリカ軍が日本を占領しました。その昭和20年の9月に、アメリカ軍がこのキャンプ座間に来られまして、それ以来、基地として使用するということになっているわけで、昭和25年から「キャンプ座間」と呼ばれるようになりました。

そして、その後、昭和35年に日本とアメリカとの間で、日本の安全などを守るためということで、「日米安全保障条約」という国と国との間の取り決めが結ばれまして、それ以来、この座間市と相模原市にまたがるキャンプ座間は、日本に駐留するアメリカ陸軍の重要な司令部、基地として、ずっとここに存在し続けているわけです。これが私たちのまちにキャンプ座間がある理由です。

そして、キャンプ座間はこれまでどんな役割を果たし、今後どんな役割を果たしていくのか」というお尋ねをいただきました。

これは、先ほどお話しましたように、日本とアメリカ、国と国との取り決めである「日米安全保障条約」、この取り決めによって、アメリカ軍が日本国内に基地を置いても良いということになっていまして、日本の国を守り、平和と安全が続くようにする役割を持つものとして、これが置かれているわけです。

ところで、私たち座間のまちは、17.58㎢という本当に小さなまちです。そこに128,000人の市民が住んでいらっしゃる。皆さんは社会科で人口密度という言葉を知っているとと思いますが、座間市は、7,300人が1㎢に住んでいらっしゃいます。これは、神奈川県内でも、4番目に人口密度が高いということになるわけです。それだ

け多くの人が、この小さなまちに肩を寄せ合って住んでいるときに、フェンスで仕切られた向こう側に、広い野球場があったり、グラウンドがあったり、青々とした芝生があって、そこにいろんな施設がある、これはそうした国と国との約束があったにしても、なんであんなに広いところがあるのに、僕たち入れないんだろう、私たちあそこのグラウンドで遊べないんだろう、こういう素朴な気持ちを持つのは、ものすごく自然なことだと思います。しかし、それが国と国との決め事によって、基地としてある、これは実際に目の前にあることで、私たちはそれを現実として見ていかなければならない。こういうことになっているわけです。これから先、この国と国との取り決めが、どうなっていくのかによって、この課題については、変化があるかもしれません。それは、国が決めていくこと、それを私たちは見守り、また、その国が決めることに対して、皆さんも大人になったときには、こうあるべきだという考え方を、この民主主義の社会の中で、これから8月30日にも選挙がありますが、議員さんを選ぶときに、皆さんが決めていく、こういうことになるわけです。

一方、キャンプ座間には、今、陸上自衛隊の皆さんも日本とアメリカの共同利用ということで、基地の中にいらっしゃいます。ここにいる陸上自衛隊の皆さんは、施設科部隊の皆さんで道路工事ですとか、災害復旧ですとか、こういったことにたいへん力を発揮される部隊の皆さんです。

先ほど、災害救助の関係でも、20番の人見健議員さんからもお話がございましたけれども、中越地震のとき、それから、つい最近では兵庫県で大きな水害があったりしました、テレビなどで見ていると自衛隊の人たちが真っ黒になって、泥まみれになって、この救出に当たるという光景を目にした方もいらっしゃると思います。皆さんの記憶にはないかと思いますが、阪神淡路の大震災のときにも、そういった光景が本当に多く見られました。2年前の中越地震でも、このキャンプ座間の中にいる自衛隊の人たちは、新潟県へ災害復旧に行かれて、たいへん活躍をされたと、うかがっております。

あってはいけない、あって欲しくない、災害こうしたときには、私たちにとって、先ほど私どもの上下水道部長、消防長からも答弁しましたが、まず自分たちで身を守る、そして、座間市として、一生懸命、災害に対する減災を考えていく、こうした取り組みが必要になりますが、どうしても必要な部分については、そうした自衛隊の皆さんに力をお借りすることもあるかもしれません。今度の8月の末に、総合防災訓練があるという話をさせていただきました。今年は8月の29日に座間小学校の校庭で行います。子場には、自衛隊の皆さんも来ていただいて、ご飯を炊くことができる車両ですとか、あとは災害復旧に役立つ車両ですとか、そういうものを実際に持ってきていただいて、実演をしていただくと、そこで炊き出していただいたご飯を食べさせてもらおうと、そういう体験もできます。社会見学で中に入ったことがない、入れないというお話がござい

ましたけれども、こうした機会もありますので、ぜひ、飯島議員さん、そして今日ここにいらっしゃる議員さんも、座間市そして自治会の皆さん、さらには災害復旧にお力を貸していただける皆さん、ともに手を携えての訓練ですから、ぜひご覧になっていただけたらと思います。

それから、キャンプ座間との交流ということで、キャンプ座間に来ていらっしゃる軍人、軍属の皆さんのお子さんたち、ご家族の皆さん、との相撲の交流に行ったというお話がございました。大変すばらしい経験をされたというふうに思います。

ここにいらっしゃるアメリカの軍人、軍属の皆さんも、自分たちが好きでここに来ているわけではありません。あの人たちは、国の指示、国に対して軍人としてお勤めになられている中で、日本に行きなさい、座間に行きなさいという命令を下されて、それに従って、ご家族を伴って来られています。そのアメリカの人たちも人です。私たちも人です。人と人どうし、せっかく、違う環境の中に住んで育てられた方たちがいらっしゃるのであれば、チャンスがあれば、お互いにふれあうことによって、いろいろと学びとることができると思います。

座間市には国際交流協会という団体があります。こうした団体の皆さんも人と人との交流ということで、そうしたチャンス、そうした機会を一生懸命提供してくれようと言われていています。ぜひ、私たち座間市といたしましても、せっかくの機会は活かしながら、ともに高めあうことができるような、そういう関係は作っていきたいと思っています。

今日、こういう機会がございました、ぜひ、あらためて、そういう歴史ですとか、今あることについて、それぞれが学び取っていただけるように念願してやみません。これで答弁を終わります。

●議長（山内実咲君） 以上で、飯島 章裕議員の一般質問を終わります。

以上で、通告のありました一般質問は全部終了しました。

これにて、一般質問を終結いたします。

8 むま子ども議会宣言

●議長（山内実咲君）

日程第五 「むま子ども議会宣言」を議題とします。

提出者を代表して、9番山口菜穂やまぐちな お議員から提案理由の説明を求めます。

[9番（山口菜穂君） 登壇]

●9番（山口菜穂君）

議長のご指名がありましたので、ただいまから議員提出議案第一号「むま子ども議会宣言」の提案者を代表して、西中学校3年山口菜穂が、提案説明を行います。

新しい総合計画策定の一環としての「むま子ども議会」に議員として参加できたことは、私の中学校生活にとって記憶に残る出来事であります。

議会がはじまり、私達議員の質問や意見に対し、市長さんをはじめ皆さんが、真剣に回答してくださったので、私も座間市民として認められたという思いで一杯です。

私たち、子ども議員は、議員としての出席が決まってから、市民の一員として、今後、何か目標を持って行動して行こうと考え、「むま子ども議会宣言」をまとめあげました。この宣言が、座間市の全ての小中学生が協力し、実行する指針となることを願っております。これより、宣言文の案を読み上げます。



「むま子ども議会宣言」（案）

- ・座間のおいしい水や美しいひまわりなど、豊かな自然を守り、緑を増やしていく努力をします。
- ・ゴミの分別、リサイクルなど地球にやさしい活動に積極的に取り組み、座間の環境問題により関心を持ちます。
- ・人と人とのつながりを大切にし、あたたかな地域になるように取り組んでいきます。
- ・お年寄りや身体の不自由な人はもちろん、座間市のみんなが安心して生活でき、協力し合い、思いやりのあるまちになるよう、努力します。
- ・防犯防災に対しての一人一人の意識を高め、安心安全な生活が送れるように努力していきます。
- ・色々な国の文化とふれあいながら共に生きていきます。

最後になりますが、この宣言が満場一致のうへ決定されることをお願いして提案説明

とさせていただきます。

●議長（山内実咲君）

お諮りいたします。

ただいま、議題となりました議員提出議案第一号については、質疑討論は省略し、ただちに採決いたしたいと思っております。

これにご異議ありませんか。

●議員（全員）（異議なし」との声あり）

●議長（山内実咲君）

ご異議がありませんので、質疑、討論を省略し、これより議員提出議案第一号を採決します。

本案は、原案のとおり決定することに賛成の方は、起立をお願いします。

●議員（全員）（起立）

●議長（山内実咲君）

全員、起立であります。

よって、議員提出議案第一号は、原案のとおり可決されました。



9 閉会

以上で、本日の日程は終了しました。

本日は、大変お忙しい中、私達の発言や質問に丁寧にご答弁いただいた、遠藤市長さんをはじめ皆様方に対し、子ども議員を代表いたしまして、お礼を申し上げます。

これをもちまして、平成21年「ざま子ども議会」を閉会いたします。

午後4時30分閉会



Ⅲ 教育長あいさつ

23名の議員の皆さんお疲れさまでした。長時間に渡る熱心なご討議たいへんうれしく思います。また、本日傍聴いただきましたご家族の皆さま、そしてご指導いただきました各学校の先生方、これまで子どもたちに寄り添い支援いただき、子ども議会に協力いただきましたことに心より感謝を申し上げます。この場を借りて御礼申し上げます。



さて、議員のみなさん、本日の議会はいかがでしたでしょうか？

私は、今、このように感じております。

議員の皆さまが、座間市民のひとりとして真剣に座間市のことを考え、向き合っ、そして、未来の座間市を想い、願うみなさんの熱い気持ちが伝わってきています。そのことに、私は、感動をおぼえています。

みなさんの気持ちを真摯に受け止め、実際の議会と同じように私たちも真剣にみなさんのご質問にお答え申し上げました。

現在そして未来へと続く、夢や希望にあふれた座間市に向かって、計画し、実現させていこうと、市民の代表である議員さんと市役所とが話し合っている場が、まさにこの場なのです。皆さま方の将来のことはもちろん、座間市の現在、そして未来を見つめ、真剣に大人たちが意見をかわし、みなさんと同じように一生懸命取り組んでいます。

そして、何よりも、その夢や希望にあふれた座間市の実現に向けて、実行していくのが、市民一人ひとりの意識であり、市民一人ひとりの力なのだと思います。

今日の子ども議会、学校の代表として来られた議員のみなさんは、2学期、学校に戻ってから、今「ざま子ども議会宣言」が出されましたが、ぜひ、学校の皆さんに伝えてほしいと思っています。例えば、9月の始業式には、ぜひ、児童会から、または生徒会からという形、あるいは児童生徒の代表からということで、報告をしていただきたい。学校の廊下には、本日のざま子ども議会宣言を、ぜひ掲示して欲しいと思っています。今日のこの大切な時間を今日一日だけで終わらせたくない、こんな気持ちでおります。

一人でも多くの学校の仲間が、みなさんと同じ気持ちで、「ざま子ども議会宣言」を意識した生活を送ってほしいと願っています。

学校の一員として、市民の一人として、夢や希望にあふれた学校生活、そして座間市の実現に向かって歩いていくことを心から念願をしております。

最後に、本日の子ども議会に出席して下さった皆さんへスケールの大きな業績を残した政治家後藤新平¹の自治の精神についての言葉を贈りたいと思います。

『自治三訣』

「人の世話にならぬよう、人のお世話をするよう、そしてむくいを求めぬよう」

皆さんが行っている児童会活動、生徒会活動というのは、この自治の精神を学ぶ場であると私は思っています。

繰り返します。

「人の世話にならぬよう、人のお世話をするよう、そしてむくいを求めぬよう」

皆さんへの私からの願いとして、心に留めて欲しいと思います。

本日の議会、とても素敵な時間をみなさんとともに過ごすことができたこと、そしてみなさんから多くの感動をいただいたことに感謝を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。みなさんの、これからのますますの成長、発展を願っています。

本日はお疲れさまでした。



¹ ごとう・しんぺい（安政4（1857）～昭和4（1929））、愛知県立病院長兼愛知医学校長から明治16年内務省に入り、ドイツ留学を経て、25年衛生局長となる。31年台湾総督府民政局長に就任、植民地経営に手腕をふるう。36年勅選貴院議員となり、39年満鉄初代総裁から第2次・第3次桂内閣の逋信相、鉄道院総裁などを歴任。大正5年寺内内閣の内相、7年外相としてシベリア出兵を推進する。9年東京市長、12年山本内閣の内相兼帝都復興院総裁に就任し、12年の関東大震災後の東京復興計画を立てた。その後、東京放送局総裁、少年団（ボーイスカウト）総裁などを務めた。昭和3年伯爵。明治14年自由党総裁・板垣退助が難に遭った際、官憲をおしきって往診した話がよく知られる。著書に「後藤新平論集」など。（「新訂 政治家人名事典 明治～昭和」平成15年、日外アソシエーツ）から引用

IV 感想文 ∞ざま子ども議会に参加して∞

ざま子ども議会

座間小学校 三浦 栄一

ざま子ども議会に出席させていただきました。この議会を通してぼくは、ほかの学校の人たちから座間市の将来のために色々な意見を聞いてとても勉強になりました。

議会のことがわかり、座間市をよりよくするための提案や意見が市に伝わり、みんなで座間市の未来を考えていくことの大切さをあらためて知りました。

貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

ざま子ども議会を終えて

栗原小学校 佐藤 里奈

私は先生から子ども議会の話を伺った時、とてもうれしく思いました。なぜならば、子ども議会は10年に1度しか開催されないと聞いたからです。

でも、実際には座間市の未来について真げんに考えたことは今までなかったので、何について文を書いたらよいのか悩んでしまいました。

ちょうどそんな時、祖父に食品ゴミに関する今年の新聞の切り抜きを見せてもらい、それを参考にしながら質問文を考えました。

2～3分間の発表時間におさまるように、自分の意見や考えをまとめることは思ったよりも難しかったです。それでも何とか仕上がって、当日議場で読み上げる時はきん張してしまいました。

でも本番前に『ゆっくり はっきり ゆったりと』と書かれた小さな紙を市役所の方にいただいたので、この言葉を何回も小さな声で読んでいたら、少し落ちついてきました。

そのおかげで質問する時は、ゆっくり、はっきり、ゆったりと読めたと思います。

答弁では市長さんから新たに食品リサイクルにとり組む計画を教えてくださいました。市長さんが答えてくれるなんて思っていなかったもので、とてもうれしかったです。

ざま子ども議会に参加することで、普段経験できないことをたくさんさせていただき、楽しかったです。ありがとうございました。

ざま子ども議会に参加して

相模野小学校 石川 悠弥

ぼくは、この「ざま子ども議会」に参加して、本当の議会の流れを知りました。流れを知ったのは、ぼくだけでなく、会議をしたみんな、知ったと思います。きつともうこのような体験は二度と無いと思いながらマイクの前に立ちました。その時ぼくは心の中で「失敗の無いように」と思いながら質問をしました。でも一つだけ失敗をしてしまいました。それは回答をする人たちにだけに礼をするのをわすれてしまいました。でも失敗は一回だけで良かったと思います。もっと失敗したら自分の発表が台無しになっていたことだと思いました。ぼくはこの議会に呼ばれ本当にわすれられない一日になり、とっても楽しかったです。

ざま子ども議会に参加して

相武台東小学校 人見 健

ぼくは、今回子ども議員をやってみて、すごくきんちょうしていました。なぜなら大勢のまえで質問したから、すごくきんちょうしました。やったあともきんちょうしていたけれど、最後には、きんちょうがほぐれてしっかり話しができました。

ぼくは防災について質問しました。食料と住居の確保ができているということで、ぼくはすごくあんしんしました。上下水道部長と消ぼう長の話を聞きました。とてもくわしくおしえてくれたので、うれしかったです。

座間市の議会に入って発言をすることは、とてもいい経験になりました。今後この経験を中学、高校に行っても生かしていきたいと思います。

今回は、このような機会をつくっていただきましてどうもありがとうございました。

ざま子ども議会に参加して

ひばりが丘小学校 園田 碧

私は、平成21年ざま子ども議会に、参加させていただきました。

最初に先生から議会の話をいただいた時は、こんな私でいいのか、最後までやりきれるか、毎日不安でしたが、家族や先生方、クラスみんな、市役所の方々に支えられ、リハーサル、本番とも、満足のいく発言ができたので私としては、座間市のためにも少しは役立てたかな、と思うし、自分にとっても良い経験になって、貴重な体験ができたから良かったと思います。

そしてこの議会が、座間市がなくなる時までずっと続いてくれるといいなと思いました。

いろいろな事を一緒に考えてくれたクラスみなさん、先生方、おうえんしてくれた家族のみんな、議会の色んな計画を立てて、はげましの言葉までかけてくださった市役所みなさん、ありがとうございました。

小学生の女の子一人でも、座間市の役に立てて嬉しかったです。

「ざま子ども議会」に参加して

東原小学校 金丸 青里香

「ざま子ども議会」に参加し、市内17校の代表の方の質問と、座間市の方々の答弁を聞かせていただき大変よい勉強になりました。また、各学校それぞれの取り組みを知ることが出来ました。

私は「子ども議会」を通して自分の質問した、ユニバーサルデザイン・バリアフリーが将来のまちづくりにどのように反映していただけるのか、とても楽しみです。

そして、2学期の始業式で学校みんなに「子ども議会宣言」を伝えました。これからの座間市がみんなで協力しあい、住み良いまちになれるようにできることを実行していきたいと思います。

ざま子ども議会に出席して

相模が丘小学校 田中 柚香

私は、今回子ども議会に出席すると聞いて、びっくりして少し不安になりましたが、児童会みんなが、意見文と一緒に考えてくれ、当日もぼうちょう席にいてくれて、とても嬉しかったです。

自分の質疑が始まる直前は、とてもドキドキしていました。心臓の音が聞こえました。名前を呼ばれた時、きんちょうしてしまし、すごく大きな声で返事をした時、良いことなのになぜか、とてもはずかしくなりました。原稿を読み始めてからは、普だん通りの私のままで話すことができ、安心しました。席に着いた時は、終わってしまったという、少しさびしい気持ちになりました。

また、他の学校の子ども議員さんの意見文を聞けたり、市の仕事をされているかたがたのお考えも聞くことができ、多くを学びました。

何より嬉しかったのは、他校の会長さんと友達になれたことです。

相模が丘小学校の児童会が目標としている、“関わり合いを大切にする”ということが、実感できたすばらしい体験でした。

子ども議会

立野台小学校 谷 和哉

子ども議会では、いろんなことを学びました。たとえば、質問の仕方です。他の子ども議員の人の質問を聞いていると、とてもいいいに言葉を話したり、せつとくりよくのある言い方をしていました。

ほかには、自分が質問した、福祉についての座間市民の意識の低さについて質問したのですが、それに副市長さんが「座間市としてはパンフレットや、イベントなどで座間市民の意識が高まるように努力しています」と真げんに答えを下さってとてもうれしかったです。

あとは、他の子ども議員の質問でとてもいいものがありました。たとえば、なぜ座間市では総合病院を作らないのですか」という質問に、市職員の方が「総合病院を建てるためには、近りんの住民の理解をえる必要があったり、医師不足という問題がある」と答えていました。ぼくはこれの質問と答えを聞いて、病院を作るのは賛成だけど、市の職員さんが言っていたように医師不足などの問題はとても大きいと思いました。

他には「学校の授業で座間キャンプの子どもたちとふれ合う授業をつくれば、いいんじゃないでしょうか」という質問がありました。ぼくはこれを聞いて「ぼくも座間キャンプの子どもたちなどとあそんだりしたいな」と思いました。

ぼくは子ども議会にでて、大人になってからも使える物がたくさんあって自分のためになりました。

ざま子ども議会に参加して

入谷小学校 飯島 章裕

僕はざま子ども議会に参加して、とても有意義な体験ができました。

僕と同じこの座間に住んでいる小学生、中学生がどんなことを考えて、どんな事に関心があるのか、いろいろな意見を聞くことができ、ハッとさせられたり、なるほどと思わされたり、とても勉強になりました。そして市長さんや、市役所の方々が、これらの質問や意見に分りやすく答えて下さって、嬉しい気持ちになりました。

議会のしくみや様子を、教科書やテレビではなく、自分自身の体験として、小学生の僕が得られたことは、大切な財産になると思います。

そして、教育長さんが最後におっしゃった「人の世話にならぬよう、人の世話をするよう、報いを求めぬよう」という言葉を大人になっても忘れずに、何をしてもらうか、よりも、何ができるのか、考えられる大人になりたいです。

小学校最後の夏休みに、このような貴重な機会を下さった事に、心から「有難うございます」と言いたいです。

ざま子ども議会に参加して

旭小学校 高木 碧海

何年かに一度しかない「ざま子ども議会」に参加したことは、とてもいい経験になりました。

リハーサルの時、初めて議場に入りました。議場は、とても広くてごうかで、市の職員の方たちもあまり入ることができないと聞き、子どもがそこで議会を開くことは、めずらしいことだと思いました。

本番は、あまり緊張しませんでした。やはり、リハーサルで慣れておいてよかったです。

発表では、まちがえずに話せてうれしかったです。わたしの質問に対して金子教育長さんが、ていねいに答えてくれました。金子教育長さんの話を聞いて、疑問に感じていたことが解決できました。

お父さんとお母さんが来るのは知っていたけど、おばあちゃんや先生、友だちも来ていたので、ビックリしました。

最後に、今回「ざま子ども議会」を開いてくださった市役所のみなさま、本当にありがとうございました。子どもたちの代表の一人として、座間市のしょう来について考えたことは、とても貴重な体験です。この体験を生かして、これからも人の役にたつことを考えていきたいです。

ざま子ども議会に参加して

中原小学校 金尾 雄大

僕は、初めて学校の代表として市の大きな行事に参加しました。緊張もしましたが、ワクワクという気持ちと、僕の質問に誰が答えてくれて、どんな風に答えてくれるのだろうと、期待もしていました。

リハーサルの時、係の人が、君達が、座っている席は本物の議員さん達が座っている席だよ。」と言っていたのでビックリしました。ここでいつも議員さん達が、会議をしているんだなと思い感動しました。リハーサルで初めて公の場で、原稿を読み上げた時、手に汗が出てきていました。何度も練習したのに初めて見るかのように、かんでしまいました。

ざま子ども議会宣言を考える時、僕はグループ2で座間の環境問題の事でしたが、案があったおかげか意外とはやく決まりました。みんなで、案を発表した時、全部のグループがもとの案とちがっていたので、自分達の言葉で変えられてよかったですなと思いました。

本番では、一人一人に市の人達が丁寧に答えてくれて、とても嬉しかったです。僕は、教育部長さんに答えてもらいました。教育部長さんは、僕の顔を見て答えてもらったので嬉しかったです。

最後に市長さんと握手できてよかったです。

ざま子ども議会に参加して

座間中学校 石田 舞奈

最初ざま子ども議会への参加が決まったときは正直不安なことだらけだった。自分なんか本当に発言をして良いのかなどと考えていた。しかし、その考えは間違っていたと、今は思う。なぜなら私たちの今住んでいる座間市のことを真剣に考えるのは市民の一つの義務だからだ。今まで私は座間市の未来についてあまりきちんとは考えていなかった。だからこの子ども議会に参加したことで「座間市のことをこれからも真剣に考えていかななくては。」と思うようになった。

子ども議会当日、私は緊張していたと同時に少し楽しみでもあった。きちんと話すことができるだろうかと思う反面、自分の質問に対してどのような回答をいただけるのかというワクワクした思いもあった。実際の回答は私の期待をはるかに超えた回答でとても温かいものだった。自分の質問に真剣に考え、答えてくださったと思うととてもうれしい気持ちでいっぱいだった。

子ども議会ではたくさんの方々の温かさにふれることができた。このような人たちがいるから今の座間市は成り立っているのだと私は思う。それにみんな座間市に対しての気持ちは同じでどうすればもっとよくなるのか、どうすれば悪いことを改善できるかを日々考えている。私もその気持ちに負けないぐらい真剣に考え、一人の市民として座間市の未来をつくり上げていきたい。

ざま子ども議会に参加して

座間中学校 小川 莉奈

今回のざま子ども議会では、普段入ることができない場所で、とても貴重な体験ができました。最初、この議会をやらないか、と言われたとき、まだ中学2年生の自分が選ばれて、正直おどろいて、迷いました。でも今思えば、やって良かったなあ…と思っています。

私の質問は、道路の整備や民間の施設や店舗のバリアフリーについての指導状況について教えてほしいというものだったのですが、この質問に対し、率直な回答をして下さったので、とても嬉しかったです。

緊張で、最初の読みをまちがえてしまったり、つかれて首や肩が痛くなったりしましたが、自分にとっては良い経験をする事ができて、本当に良かったと思います。大人に市のことを考えて質問する、というのは、もう二度とすることがないと思うので、この日のことを忘れずに将来に役立てていきたいです。

また、市内の違う小学校、中学校の生徒さんと出会えて楽しかったです。全員と関わったわけではありませんが、また市内、市外のどこかで、会う機会があると良いな…と思います。

最後に、またこのような議会などがあれば、ぜひ、参加したいです。

ざま子ども議会に参加して

西中学校 山内 実咲

この子ども議会に出れた事によって、今まで知らなかった議場に入ることもできたし、市長さんをはじめ、市の運営をしている方々へ議員として質問させてもらいました。通常、体験できない事をこの夏休みに体験できたことはすごく嬉しかったです。

一番嬉しかったのは、市長さん達が相手が子どもだからといって手をぬくのではなく、どの質問にも真剣に答えてくれたことです。私が疑問に思っていた「子ども110番の家」や、しょくたく員の存在もわかり、すごく良かったです。

また、リハーサル時からの皆の雰囲気も良くて楽しくすることができました。市役所の担当の方も恐いのかな、と思っていたらすごくフレンドリーというか笑顔で話しかけられてそんな不安もなくなりました。

これらの経験を将来につなげていきたいと思います。2日間、ありがとうございました。

ざま子ども議会に参加して

西中学校 山口 菜穂

今回、このざま子ども議会に議員として出席させて頂いたことは、私にとってとても大きな経験でした。

議員として出席するにあたって、座間市の良い所や改善すべき所は何なのだろうか、そしてそれに向けて私は何をすべきなのだろうか、座間の一市民として、改めて色々なことを考えました。その結果、座間のシンボルとも言えるヒマワリを守るためにも、環境保全が大切だと考え、意見としてまとめました。

当日は、普段は感じる事のない張りつめた空気に少々圧倒されつつも、しっかり意見を述べ、私の考える環境保全の大切さをきちんと認めていただくことができ、また私の意見に丁寧に回答をしていただいたので、とても嬉しく思いました。

更に、私は「子ども議会宣言」の提案者という大役も務めさせて頂き、無事に終えることができたときには、議員としての責任を果たせたという満足感で一杯でした。

今回の議会は、これからの座間市を背負っていく私達の象徴とも言えることだったと思います。なのでこれを忘れることなく、素晴らしい座間市の未来作りに貢献していけるよう頑張っていきたいと思います。

ざま子ども議会に参加して

東中学校 高杉 光咲

今回のざま子ども議会で、私は議長をやらせて頂きました。議会に出席できるだけでも貴重な体験なのに、あの議長席に私が座るなんて、本当にすごい事だと思います。また、他の学校の人達の意見などを聞いて、私が今まで気付かなかったことがたくさんあり、勉強になりました。そして、これからの座間市をどういうふうにしていくのか、ということはとても大切です。それを決めていく際、私の意見も関わっていくのだと思うと、大変嬉しく、また、誇らしく感じます。

将来、私が大人になったとき、あ！ということがあるかもしれません。そのときがとても楽しみです。最後に、今回私にこのような機会を与えてくださり、本当にありがとうございました。良い経験となりました。

ざま子ども議会に参加して

東中学校 菱沼 阿連

「議員になって下さい」と言われた時には、あまり実感がわきませんでした。リハーサル等を入念に行っている事から、この子ども議会の重要性などが伝わり、とても緊張しました。けれども、実際登壇してみると緊張がほどけ自分の思っている事を話すことができました。いい経験になったのでこれからの思い出にしたいです。

ざま子ども議会に参加して

栗原中学校 板垣 徹

僕はこのざま子ども議会に参加することを知った時、不安になりました。座間市長をはじめとするさまざまな方々と一緒に議会に参加させてもらえる機会は二度とないかもしれません。どのようになるのか色々想像したりもしました。

僕は作文を書いたり文書を作ったりするのが正直あまり得意ではありません。質問の原稿を作るのも一苦勞でした。最初はどのように書いていいのかもわからず、とても時間がかかったことを覚えています。やっとの思いで書き終わっても、読み返してみると誤字、脱字が沢山あって一からやりなおしました。その後も何回も書き直して、やっとな得できる原稿が出来上がりました。

8月7日のリハーサルでは、始めの方は、やはり緊張していたのですが、議場でのリハーサルが終わり、体操をやったり、子ども議会宣言について周りの人と話し合ったりしていると、リラックスすることができました。

本番当日、議場に入ると目の前には市の役員の人達が座っており、少し怖気付いてしまいました。自分が質問する番になったら心臓がとんでもない勢いで「バクバク」動いていまし

た。何度も深呼吸をして、緊張をおちつかせ議長の前に立ちました。やはり、所々噛んでしまったり、つまってしまったり、色々失敗はありましたが、無事やりとげることができてよかったです。

子ども議会は、僕にとって、とてもよい経験になりました。そしてこれからの座間がこの議会を一つのきっかけに、よりすばらしいまちになればいいと思います。

ざま子ども議会に参加して

栗原中学校 井上 南風美

先生から「ざま子ども議会」への依頼が来た時は、もちろん驚きでしたし、どんな議会なのか、全く予想がつかなかったのも、大きな不安もありました。

先生から発言通告書の原稿を書くようにと言われたのが、確かしめ切りの前日でした。その日は夜中の2時まで練りにねって原稿を書き上げました。生徒会選挙以来、久々に頭をフルに回転させて作りました。とても苦労しました。

リハーサルの日、いざ議場に入ると、とても緊張しました。まさかあんなに立派な所で開かれるなんて思っていなかったのです。でも緊張すると、いつも原稿を早口で読んでしまうので、原稿の字の横に、「ゆっくり！落ちついて！」などと書いて、自分の質問の番になれば、それをチラチラと見ながら質問をしました。おかげで少しはあせらずに、本番でもゆっくりはきはきと質問することができました。市役所の職員の方が下さったお守りも効いたのだと思います。

「ざま子ども議会」は平成13年以来、8年ぶりに開かれたということで、そのような会議に参加できて、とても光栄です。一生自慢できる、とても良い経験になりました。私たち子ども議員が考えた「子ども議員宣言」が座間市に住む、子どもたちのスローガンとなり、1人1人が実行してくれることと願っています。市役所のみなさん、本当にありがとうございました。

ざま子ども議会に参加して

相模中学校 安達 未悠

私は夏休みに入る前の6月に、このざま子ども議会のことを知りました。はじめ、このことを聞いた時はあまり関心がなく、どういったものなのか想像もつきませんでした。しかし、私が子ども議会に参加することが決まり、興味を持つようになりました。

はじめは、「座間市の未来」だなんて全然考えたことがなく、しっかり議員として発言できるか不安でした。しかし、当日になると、市長さんをはじめ、たくさんの方々が私の意見に対して温かい答弁をくださったので、とても嬉しく思います。

私はこの貴重な体験をもとに、これからの学校生活、社会に出ても活かしていきたいと思

います。

子ども議会

相模中学校 天野 沙希

今回、私は子ども議会に参加し、貴重な経験を得ることができました。

自分で質問を考え、自分の言葉で、自分の思っている事を皆さんに伝えるのは、とても難しいことでした。

質問も下調べを行いしっかり準備をして、本番に臨みました。

本番は緊張でほとんど覚えていない程です。ですが、自分の考えを自分の言葉で、はっきり、ゆっくり、相手に聞きやすいように、要望がしっかり伝わるように、心を込めて質問しました。

私は最後の子ども議会宣言を聞き、改めて、気持ちが引き締められました。

今、議事を終え、自分の意見が言えたことで充実感がいっぱいです。たくさんの人の前で発言できた事で勇気と自信が持てました。

たくさんの人とこの子ども議会を作り上げられた事の嬉しさと、このような機会を作っていただいたことへの感謝の気持ちでいっぱいです。夏休み中にとっても良い思い出になり、一人の座間市民になれた気がします。

ざま子ども議会に参加して

南中学校 青木 彩弥

リハーサルの時は初対面の人が多くて、とても緊張しました。緊張のあまり、礼の順番を忘れてしまったり、早口になってしまったりしました。人前で話すのは慣れているはずなのに、上手く話せなくて、家に帰って練習したりもしました。

本番は想像以上に堂々と話せたので良かったです。

今回、平成13年以来に行われた「ざま子ども議会」に議員として参加できたことは、とても貴重な体験だと思います。私達、小中学生の座間市に対する思いが伝わってよかったです。みんな、私が日常では気づかなかった様々な質問を考えていて、とても勉強になりました。

特に、印象が強かったのは、キャンプ座間への質問です。「マイナスをプラスに変えることで、誰もが不利にならない」という考えに感心しました。私は小学校1年生の時から、座間に住んでいますが、キャンプ座間を「うるさい」と思うことばかりでした。何故あるのか、何をしているのかなど深く追求したこともありませんでした。なので今回キャンプ座間のことも詳しく知れて、とても為になりましたし、まだ小学校6年生の彼の堂々とした発言を聞いて、「もっとしっかりしなくては」と思うようになりました。

他にも興味深い質問がたくさんあり、1つ1つに市が分かりやすく、ていねいに答えてくれたので「これからの座間をより良くするにはどうしたらいいか」と考えるようになりました。1人1人の小さな努力がとても大切なことだと思いました。

これからも座間を大切にしていきたいです。

ざま子ども議会に参加して

南中学校 吉岡 和香奈

今回、ざま子ども議会に参加して、めったに経験することのできない事をいろいろさせていただき、充実した1日になりました。

私が質問した「環境問題」について、分かりやすく説明してくださり、座間の自然を守るために、いろいろな事をやっていることを知りました。今回のような機会があったからこそ、座間について、よく考えることもできましたし、私にもできること、手伝えることがたくさんあることも分かり、今まで座間に住んでいるだけで、市のためになにかしたい。」と、考えることや、思うこともありませんでした。しかし、今回参加したことにより、未来のために、何かしたいとすごく感じることもできました。また、大人になってもこの「座間」に住んで、どのような市になっていくのかも見たくなりました。なかなかこの市について知る機会や、学ぶ機会、考える機会がないので、学校などでもっと私たちの住む「座間」のことを学ぶ機会があったらいいかな？と思います。そうしたら、大人になっても住み続けたいと思うようにはなるのではないかと、今回参加し、思いました。

またこのような機会があれば参加してみたいです。ありがとうございました。